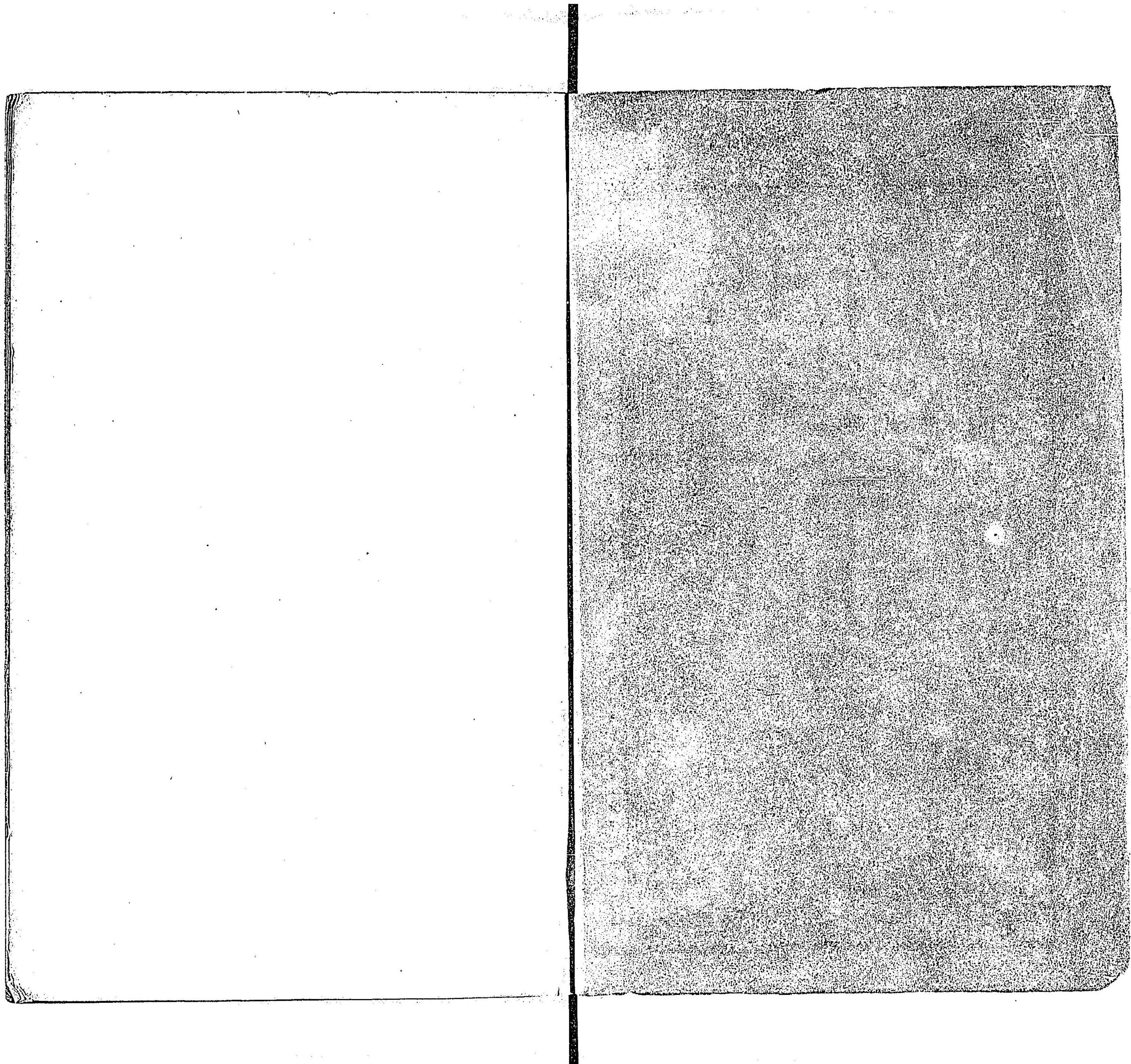


富岡門前警察署編纂

刑法令訓集

編 續

明治十六年四月 同盟印刷



CZ
711
022

特 64
350



緒言

本編ハ初キニ同盟印刷セシ刑法令訓集ノ次編ニシテ則チ
本年一月一日ヨリ同三月三十一日迄三ヶ月間ニ係ル何指
令等ヲ編集セシモノニシテ専ラ前後ノ不備ナカラシメン
ヲナ期スルニ在リ
本編中〇刑法第何條參看トアルハ該條ニ對スル何指令等

緒言

上對照ニ便スルニ爲メ、對照表ヲ附シ、又ハ註釋ニ據ルニ便スルニ爲メ、對照表等
 本編各伺指令之後へ一行ノ白紙ヲ餘シタルハ異種ノ條項
 識別ヲ容易トシ、又ニカ爲メ、且編末刑法附則之部ト
 本編ハ右三ヶ月間同則ノ伺指令等ニ係ルニ及ビ、且編末
 一本編ニ尙ホ謄寫ノ勞ヲ省カシ、爲メ、廳員相謀リ印刷ニ付
 ス故ニ同盟ノ證ヲ貼シ、販賣ヲ禁シ、且散逸ナカラシメン
 一編纂ノ順序体裁或ハ不備ナキヲ保シ、難シ請フ同盟諸君
 之ヲ恕セヨ

明治十六年四月

編者識

刑法令訓集 第一次編目錄
 第一編

法例	一至	五
主刑處分	六至	一六
附加刑處分	一七至	二二
徵償處分	二三至	二九
刑期計算	三〇至	三六
加減例	三七至	四一
不論罪及宥恕減輕	四二至	四七
自首減輕	四八至	五二
再犯加重	五三至	五七
數罪併發	五八至	六二

目錄

正犯

三十一丁

從犯

全丁

未遂犯罪

自三十二丁
至三十四丁

第二編

皇室ニ對スル罪

三十五丁

官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

三十六丁

囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

自三十七丁
至三十八丁

私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

自三十九丁
至四十丁

公務ヲ行フヲ拒ム罪

自四十丁
至四十一丁

貨幣ヲ偽造スル罪

自四十二丁
至四十三丁

官印ヲ偽造スル罪

自四十四丁
至四十五丁

官ノ文書ヲ偽造スル罪

自四十六丁
至四十七丁

私印私書ヲ偽造スル罪

自四十八丁
至四十九丁

免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

自五十七丁
至五十八丁

偽證ノ罪

五十九丁

身分ヲ詐稱スル罪

全丁

健康ヲ害スヘキ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

六十一丁

私ニ醫業ヲ爲ス罪

全丁

風俗ヲ害スル罪

自六十二丁
至六十三丁

官吏財産ニ對スル罪

六十七丁

第三編

謀殺故殺ノ罪

自六十七丁
至六十九丁

毆打創傷ノ罪

全丁

擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

自七十丁
至七十一丁

誣告及ヒ誹毀ノ罪

自七十二丁
至七十三丁

竊盜ノ罪

自七十四丁
至七十五丁

詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪 自七十五丁
 至八十二丁
 贓物ニ關スル罪 八十三丁
 自八十三丁
 至八十四丁
 放火失火ノ罪 自八十五丁
 至八十六丁
 家屋物品ヲ毀損シ及ヒ勸植物ヲ害スル罪 自八十七丁
 至九十一丁

第四編

違警罪

刑法附則ノ部

自八十七丁
 至九十一丁
 自九十五丁

○刑法 第二條以下參看

○平輕罪裁判所判事 (十五年十二月二日請訓)

第三條 刑法中ハト稱シ他人ト稱スルハ區別アルモノ、如シ

竊盜詐偽取財得遺失物他人ト稱シ親屬アラサル者トナスハ各末項ニ親屬例アリテ明瞭ナリ
 然ルニ盜用印影決潰堤防ニ人ト云ハス他人トナシタルハ親屬ニアラサル者ナルカ或ハ別ニ
 意味ナク人ト云フニ同視スヘキカ

内訓第三條人ト稱シ他人ト稱スルハ區別アルコトナク親屬モ包含ス但失火犯罪者ニシテ刑法
 第三百七十七條ノ親屬ニ係ル時ハ格別ナリトス

○刑法 第三條參看

○弘前輕罪裁判所檢事 (十五年十二月十六日伺)

第一條 財産ニ對スル罪

新法實施以來財産ニ對スル罪ト雖モ其贓數ニ因テ罰ニ輕重無キヤ知ル可シ若シ其所犯新法頒
 布以前ニ在テ刑法第三條第二項比照法ニ由ルカ如キハ法律ニ正條アリト雖モ其刑輕クシテ其
 罪重ク本年本省第六一八〇号御達ニ所謂罪惡ノ度ニ適セサルモノト思料セラル例セハ茲ニ甲
 村ノ總代人アリ舊某藩郡奉行ノ仕分書ヲ偽造シテ乙村ト秣場ヲ爭ヒ詞訟ヲ爲シ其裁判々決ヲ
 得ルニ至リ初告控訴共ニ該偽證書ニ依據セラレ乙村ハ敗訴ニ及ヒ爲メニ秣山ヲ失ヒ又同手術

法例

ナ以テ丙村ノ田地ヲ奪ヒタリ其贓高敷千圓ニシテ舊律ニ依レハ贓金六十圓以上懲役十年トアリ之ヲ新法ニ比照シ輕キニ從ル時ハ刑法第三百九十條詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ該ルノ類但舊法ニ於テ先キニ藩ノ余ノ文書ヲ偽造シタル廉ハ該贓罪ト二罪俱發以重論條ニ係リ消滅シタルモノトス

指令上申ノ趣目下事件之レアルニ於テハ現在ノ法律ニ依リ處分スヘシ

(理由)右審按候處現在ノ法律事實ニ適當セサルモ未タ御改正相成ラサル間ハ現在ノ法律

ニ依ラサルヲ得ト考量候

○樺戶集治監典獄 (十五年十二月二十五日伺)

十六年一月十八日付

舊刑法懲役終身ニ處セラレタル囚人逃走其他ノ罪ヲ犯シ新刑法ニ照シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ存留養親若シハ老疾收贖等ハ聽サレサル義ト相心得可然哉

指令伺ノ趣新法ノ刑期ヲ經過シタル上ハ舊法ニ依テ存留養親等ヲ聽スヲ得ル義ト心得

○滋賀縣 (十五年十二月二十七日伺)

十六年一月二十日付

嘗テ禁獄一年以上ノ囚アリ處刑限内該父母年七十以上ニシテ家ニ侍養ノ子孫ナキテ以テ改定律例第二十七條ニ依リ養親ヲ許サレタルモノハ此レニテ己ニ該犯ノ處分ヲ終リタルモノナレハ假令其父母死スルモ復獄セシムヘキモノニ無之且法律上復獄セシムヘシトノ明文モ無之候得者其儘差置キ可然義ト相考居候處別紙京都府伺ニ對シ御指令ノ次第モ有之聊カ疑團ヲ生シ

候ニ付相伺候尤モ目下差係リタル事件有之候間至急何分之御指令被下度候也

指令伺ノ趣父母死亡スルモ復獄セシムルニ及ハス但京都府指令ハ取消候事

(理由)右ハ別紙參照法制部ノ回答ニ依レハ一旦養親ヲ聽シタル者ハ其父母死亡スルモ再

ヒ復獄セシムルニ及ハサル儀ニ付左ノ通御指令及ハレ京都府へ降サレタル先度ノ御指令

ハ御取消相成可然ト考量候

京都府へ達 十六年一月十九日

去ル明治十二年十一月伺禁獄一年以上ノ囚父母年七十以上ニシテ家ニ侍養ノ子孫ナキテ

以テ養親ヲ聽サレタル者父母死亡スルハ直チニ復獄セシムルヤ否ノ件右先度ノ指令ハ取

消候事以來ハ復獄セシムルニ及ハサル儀ト心得可シ (京都府伺)

○甲府始審裁判所判事 (十六年一月十六日問合)

十六年一月十八日回答

茲ニ明治十四年中ノ犯罪ニシテ二罪俱ニ發スル者アリ其一ハ持兇器強盜數人共犯ノ自首ニシテ一ハ竊盜三犯ニ該ル罪ナリトス之ヲ新舊ノ法律ニ照スニ舊法ニ於テハ其強盜ノ罪ハ自首シテ贓銀六兩ヲサルヲ以テ本罪ニ二等ヲ減シ懲役七年其竊盜罪ハ三犯贓金五十圓以上ナルヲ以テ懲役終身ニ該ル新法ニ於テハ其強盜罪ハ減刑シテ重懲役ニ其竊盜罪ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル如此モノハ新舊法比照例ニ依リ強盜罪舊法ノ輕キニ從ヒ懲役七年ニ處斷ス可キハ勿論ト思料致候得共爲念及御問合候條電報ヲ以テ御回答相成度候也

回答本月十六日付御問合之趣ハ舊法ニ罪俱發例ニテハ竊盜重シ新法ニテハ強盜重シ囚テ新

舊法比照シ輕キ新法ニ從ヒ重懲役ニ處ス

○甲府始審裁判所判事 (十六年一月二十日質問)

茲ニ明治十四年中ノ犯罪ニシテ二罪俱ニ發スル者アリ其一ハ持兇器強盜數人共犯ノ自首ニシテ一ハ竊盜三犯ニ該ル罪ナリトス之ヲ新舊ノ法ニ照スニ舊法ニ於テハ其強盜ノ罪ハ自首シテ懲役終身ニ該リ新法ニ於テハ其強盜罪ハ減刑シテ重懲役ニ其竊盜罪ハ二月以上四年以下ノ重懲役終身ニ該ル如此モノハ新舊法比照例ニ依リ其輕キ舊法ノ強盜律ニ從ヒ懲役七年ニ處斷ス可キ者ト思料シ及御問合候處右ハ重懲役ニ處スヘシトノ御回答ニ候得共聊カ穩當ナラサル様相考候抑モ小官ノ考ヘニハ其強盜罪ハ舊法ノ強盜律新法ノ強盜律トテ比較シ又其竊盜罪ハ舊法ノ強盜條ト新法ノ強盜條トテ對照シ即チ新舊各々其罪名同クシテ彼我其罪名ニ適施スル法ヲ比照スヘキモノニシテ舊法ノ強盜律ト新法ノ強盜律トテ比較スルカ如キ一ハ決シテ有之間敷ト思料致候故テ以テ本案強盜罪ハ舊法ノ強盜律ト新法ノ強盜律トテ比較シ其輕キ舊法ニ從ヒ又其竊盜罪ハ舊法ノ強盜條ト新法ノ強盜條トテ比較シ其輕キ新法ニ從ヒ而シテ數罪俱發例ニ照シ一ノ重キ強盜即チ舊法ニ從ヒ懲役七年ニ處斷スルヲ相當ト見込及御問合候儀ニ有之候然ルニ右御回答ノ如キ重懲役即チ新法強盜律ニ從ヒ處斷スル時ハ舊法ノ竊盜律ト新法ノ強盜律トテ對照セサルヲ得ス然ラハ即チ所謂彼我罪名等シカラサル法律ヲ比照スルニ當リ惟リ新舊法比照例ノ旨趣ニ違フノミナラス爲メニ被告人ハ既得ノ權ヲ害セラル、モノトス何トナレハ其

新法ニ於テ重懲役ニ該ル強盜罪ハ舊法ニ於テ懲役七年ニ該リ即チ新法重懲役ヨリ輕ケレハナリ右ノ如ク見解致候時ハ到底新法ノ重懲役ニ處斷スルヲ得サルモノト相考候得共尙ホ重懲役ニ處斷スヘキモノニ候得ハ其理由詳細御示シ相成度猶又及御問合候也

回答本月廿日附新舊法比照方ノ義ニ付再質ニ趣テ承石ハ二罪俱發ト數罪俱發トノ法律ハ罪ヲ比較スルモノニシテ新舊比照法ハ刑ノ輕重ヲ比照スルノ趣旨ニ依リ御回答及ヒタル義ニテ既ニ追々訓令ノ例モ有之候間先度回答ノ通御承知有之度此段及再答候也

○松江始審裁判所判事 (十六年一月二十六日質問)

茲ニ甲地ニ於テ懲役終身ノ囚アリ服役中明治十三年一月中從犯ニテ反獄シ明治十三年六月中乙地ニ於テ又詐稱官ノ罪ヲ犯ス之レヲ處スル懲役終身ノ囚ナルヲ以テ懲役人又犯罪改正條例ニヨリ棒鎖十日ニ付明治十四年第八十一號佈告第十三條ニ依リ棒鎖ニ科スル論ヲ俟タスト雖モ該犯ニ於ケル乙地ニ於テ反獄ノ罪ヲ包藏シ詐稱官ノ罪ニ係リ懲役二年半ニ處セラレタリ而シテ當今ニ至リ包藏罪即チ反獄ノ罪發覺セリ今之レヲ處斷スル包藏罪ハ詐稱官ノ罪ト俱發セハ勿論棒鎖ニ處スヘキモ反獄罪ヲ包藏シテ己ニ詐稱官ノ處刑ヲ受ケシ上ハ尙棒鎖ニ科スル時ハ二罪各別ニ相科スルノ苛刑ナレハ素ヨリ科斷スヘキモノニ無之依テ先ニ處斷テ經シ懲役二年半ト後發罪即反獄罪ハ舊時ノ所犯ナルヲ以テ爰ニ先ツ刑法第三條第二項ニ照シ刑法第四百十二條第二項ノ刑期ト改正懲役人又犯罪條例ニ問ヒ其棒鎖十日トテ比照シ己ニ處斷テ經タル懲役二年半ト對照シ重キハ更ニ論シ輕キハ論セサルカ如シト雖モ其棒鎖十日ハ新法刑期何日

ニ相當スル乎比照ノ例モ無之旁疑義ヲ生シ決シ兼候條本件ノ如キハ如何處分スヘキ哉
内訓請訓ノ趣反獄罪ヲ包藏シ詐稱官ノ罪ニ處セラタルモ該囚ハ固ト懲役終身ナルヲ以テ實
際懲役二年半ノ處罰ヲ執行シタルモノニ非サルニ依リ二罪俱發ノ例ニ依リ其重キ反獄罪ニ
從ヒ棒鎖十日ニ處スヘシ

○長野輕罪裁判所松本支廳檢事 (十六年二月廿七日伺) 電報
全 十六年三月五日付

昨十五年第六十一號公布酒造稅則モ又刑法第三條末項ニ依リ明治十三年第四十五號同則ト比
照シ輕キニ從ヒ處分ス可キモノナルヤ差掛ノ件アリ電報ニテ御指令ヲ請
指令本月二十七日付電報伺ノ趣ハ伺ノ通

○刑法 第五條參看

○津山始審裁判所判事 (十五年十二月十九日請訓)
十六年一月十一日内訓

第一條 刑法第五條第二項若シ他ノ法律規則ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フトア
リ因テ他ノ法律規則ニ總則ヲ掲ケサル者ハ總テ刑法ノ總則ニ從フヘキハ言テ俟サルヘシ然ル
處茲ニ證券印稅規則第四則第二條(第一類、第二類、第三類)ノ證券類ニ證券印紙ヲ貼用セサ
ル者ハ脫稅高ノ廿倍其證書ヲ受取タル者ハ脫稅高ノ十倍過料タルヘキ事トアリ案スルニ證書
渡主五名乃至七名一紙ノ證書ニ連署捺印シタル者ハ廿倍ノ科料金ヲ其數名ニ分科シ其證書受
取主モ亦數名ナレハ其數名ニ十倍ノ科料金ヲ分科フルノ精神オラシテ然ラハ是等刑法ノ

總則ニ從フ時ハ皆正犯ト爲シ各自ニ廿倍又ハ十倍ノ科料金ヲ科セサルヲ得ス然レハ則ニ紙證
書ニ數名連署スル者ハ數十倍ノ科料金ヲ科スルニ至リ頗ル酷ナルヲ覺テ因テ該規則ノ如キハ
刑法第五條第二項ニ從ラノ限リニ非スト相心得可然哉

内訓第一條數名各自ニ二十倍又ハ十倍ノ科料金ヲ科ス

○小濱治安裁判所判事補 (十六年二月九日伺)
全 十六年三月三日付

客年十二月廿八日付甲第五十四號ヲ以テ彈藥火藥ノ區別及ヒ明治五年第百八十二号太政官御
達存廢ノ儀相伺今般第二号ヲ以テ御指令相成候處該伺書第二條明治十五年第百八十二号トア
ルハ全ク二百八十二号ノ誤寫ニ付更ニ該御布告ノ存廢仰御指令候也
指令明治五年第百八十二号布告ハ未タ廢セラレサル儀ト心得ヘシ

但刑法ト重複スル部分ハ此限ニアラス

○岡山始審裁判所津山支廳檢事 (十六年三月五日請訓) 電報
全 十六年三月八日内訓

十四年七十二号布告第五條ハ刑法ト罰例規則ト併發スルモ各別ニ科スルノ趣意カ
内訓本月五日附津山支廳森安檢事電報請訓ノ趣ハ見解ノ通

○刑法 第二十五條參看

○内務省 (十五年十二月十四日照會)
十六年一月九日回答

定役ニ服スル囚人工錢給與之儀ニ付刑法第二十五條但書ニ現役百日以内ハ給與ノ限ニアラス

トアリ附則第十八條ニ後犯ノ刑期百日内ハ工錢ヲ給與セズ然レテ刑ノ執行ハ刑
 法第九十五條ニ依ラサルヲ得今茲ニ三囚アリ前犯服役限内ヲ經過スル僅ニ數日間ニ在テ更
 ニ罪ヲ犯シ前犯ヨリ重キ時ハ其重キ後犯ヲ執行シ附則ニ從ヒ刑期百日ヲ經過セハ工錢ヲ給與
 シ得ヘシ其後前犯ノ刑ヲ執行スル日ニ於テ前日經過シタル日數ヲ合セ現役百日ヲ經サレハ工
 錢ヲ給與セサルモノトセハ使役上頗ル權衡ヲ失ヒ不都合不少右ハ如何ノ旨趣ニ候哉往々伺出
 候向モ有之候間一應及御問合候至急御答有之度候也

回答定役ニ服スル囚人工錢給與ノ儀ニ付客年十二月十四日付御照會ノ趣了承右ハ囚人ヲ定
 役ニ服セシムルニ付テハ官ノ費用モ不少ニ付一ノ刑ニ付百日内ハ工錢ヲ給與セサル儀ニ
 之アルヘク己ニ一ノ刑ヲ執行スルニ付百日内ハ給與セサルモノト定メタル上ハ御照會ノ
 例ノ如キモ前犯ノ剩餘ノ刑ヲ執行スル時ハ亦前ニ經過シタル日數ヲ合セ百日内ハ給與セ
 ザルヲ當然歟ト相考候此段及御回答候也

○刑法 第三十三條參看

○浦和輕罪裁判所檢事

十六年一月二十四日質問

官吏タル者罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ヲ言渡テ受ケ其言渡ニ對シ不服ヲ爲シ上告スルモ現任ノ官
 職ハ自然失ヒタルモノナリヤ將テ其上告ノ判決アル迄ハ其職ハ失ハサルニキ哉
 回答官吏罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ノ儀ニ付御質問ノ趣右ハ後段御意見ノ通

○三重縣

十六年二月十二日伺
全 年三月八日付

ニテ可然ト考量ス但行政上ノ處分ハ格別ナルヘシ
 刑法第三十二條第三十五條ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪
 ス其ノ刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルヲ禁ストアリ刑法第三十三條ニ禁錮ニ處セラレタ
 ル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フヲ停止ストアリ右ハ重
 罪若クハ輕罪ノ禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケルノ日ヨリ其附加刑ニ處セラレ且現任ノ官職ヲ失ヒタ
 ル者ナリ而シテ現任ノ官職ヲ失フヲ除クノ外其附加刑ヲ執行スルハ刑法第五十條ニ依リ上訴
 期限ヲ經盡シテ確定シタル後ニ執行スルハ論ヲ待タス然ルニ其上訴中ハ果シテ前裁判ノ如ク
 處刑セラル、ヤ否ヤ其ノ左一右ニ至テハ未タ確定セザルノ間ナリ此間ニ於テハ公權ヲ行ヒ若
 クハ財産ヲ治ムルヲ得ヘキ人トモ言ヒ難ク又其得ヘカラサル人トモ言ヒ難キニ似タリト雖モ
 一日前顯ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル上ハ其宣告ノ日ヨリ上訴期限ヲ經過スルマテノ間又ハ上訴ノ
 リタル時ハ其裁判確定スルノ日マテノ間ハ身軀ノ監倉ニ拘束セラレ、ト保釋ヲ受ケルトニ拘
 ハラズ素ヨリ官吏證人分散者ノ管財人等ト爲リテ即チ公權ヲ行ヒ又ハ財産ノ賣買贈遺等ヲ爲
 シテ即チ財産ヲ治ル儀ハ不相成儀ト心得可然哉
 指令伺ノ趣治罪法百八十二條ニ依リ證人ト爲ルヲ得ズ及ヒ縣會議員ト爲リシ者ハ保釋
 ヲ受タル時ト雖モ議場ニ出席スルヲ得サル條件ヲ除クノ外刑法第三十二條ニ記列スル公
 權ハ裁判言渡アリタルモ未タ確定セザル間ハ之レヲ剝奪又ハ停止スルノ限ニアラス但同條

第二第九ノ處合ハ行政上ノ處分ヲ以テ免職スルハ妨ナシ

(理由)右審按候處刑法第五十條ニ依レハ行政ノ都合ヲ以テ官吏及ヒ教員等ノ職務ヲ罷ムルカ治罪法第百八十二條ヲ以テ證人トナルコトヲ禁シタル外ハ未タ其刑ノ確定セサル間ハ其刑ヲ執行スルヲ得サルヲ以テ爾餘ノ權ハ之ヲ行フコトヲ得ル儀トモ量候然ルニ別紙參照太政官ノ御指令ニ依レハ縣會議員ハ保釋中ト雖モ議場ニ出席スルヲ得サルニ付右ノ通參照

○石川縣 (十五年九月十六日伺) 電報

縣會議員犯罪有之拘留又ハ保釋シタル未決中ノ者ハ縣會ニ臨場不相成哉 (內務卿) 指令縣會議員拘留保釋中トモ議場出席ノ儀ハ不相成儀ト心得

○刑法 第四十三條參看

○朽木始審裁判所判事 (十六年一月二十六日請訓)

爰ニ甲吉ナル者アリ聯合戶長役場ノ印章及ヒ證人丙七戶長丁助ノ實印ヲ偽刻シ左ノ證書ヲ偽造シテ乙藏ヨリ金百圓ヲ借受タリ

借用證

一金百圓也

但シ利子ハ制限ノ通り

聯合戶長役場之印

此抵當

田二反五畝步

同郡村字

此地價金百二拾圓

右ノ拙者所有ナル書面ノ田地ヲ抵當シ前書ノ金圓正ニ借用スル處確實也返濟ノ儀ハ明治十六年二月廿日限り元利共無相違返金可致候萬一相滞リ候節ハ右抵當ノ地所券面ヲ貴殿名義ニ書換相渡可申候爲後日借用證依如件

明治十五年七月十日

借主

甲吉

印

證人

丙七

印

乙藏殿

前書ノ通相違無之ニ付與印致候也

戶長

丁助

印

依テ甲吉ハ刑法第九十五條第二百四條第二百八條第三百十條第三百九十條及ヒ第百條ニ照依シ處分スヘキモ該證書ノ處分ニ至リテハ是迄區々ニ出一定セサルニ依リ右證書處分方左ニ

附加刑處分

相伺候

第一 該證書ハ犯罪ノ用ニ供セシモノ、如シト雖モ素ヨリ不正ノ所爲ニ出タルヲ以テ贋造紙幣ト同視シ官ニ没スヘキヤ

第二 該證書ハ一ノ權利ト看做シ所有者即チ乙藏其儘還付スヘキモノナルヤ

第三 該證書面ニアル戸長役場ノ偽印影及ヒ與實印保證人ノ印影ヲ切抜シカ又ハ塗殺シテ乙藏へ還付スヘキヤ

右處分ニ付テハ宣告ヲ爲スヘキモノニ可有之モ法律上明文無之ニ付至急仰内訓候也

内訓請訓ノ趣偽造證書ハ沒收シテ訴證書類ト共ニ保存スヘシ但其證書ヲ證憑トス可キ者ニ係レハ明治十二年本省丙第十号達ノ通心得可シ

○刑法 第四十四條參看

○金澤輕罪裁判所檢事

(十五年十二月七日請訓)

(十六年二月十二日內訓)

財物ヲ賭テ現ニ博奕ヲ爲シタル者アリ警官ノ巡視ニ來テ覺リ逃走シ警官ハ犯人ノ誰タルヲ確認セス然ルニ賭場ノ器具財物ノ類現場ニ在ル時該品處分方ハ現ニ犯罪ノ用ニ供シタル物件トシ刑法第四十四條ニ照シ處分スヘキ乎將タ犯人ノ誰タルノ所爲分明セサレハ遺失物取扱規則ニ因リ處分スヘキ乎

内訓請訓ノ趣後段見解ノ通但賭博ノ器具タケハ警察ノ處分ヲ以テ直ニ没入スヘシ

○刑法 第四十八條參看

○岡山始審裁判所判事

(十五年十二月 質問)

(十六年一月六日回答)

爰ニ甲ナル者乙ノ家ニ忍入り物品ヲ竊取シ丙ニ故賣シタリ然ルニ丙ハ其故買ノ贓物ヲ住所姓名不知遠國人ニ轉賣シ僅カニ其贓物ノ内二三品ヲ殘シ所持セシヨリ發露シテ捕ニ就キタリ於茲乙ナル被害者ハ丙ナル故買者ニ對シテ賠償返還ヲ請求セリ但甲ナル盜犯ハ其踪跡ヲ知ル能ハス如斯モノハ丙ナル故買者ノ手ニ現在スル二三品ヲ追徴シテ乙ナル被害者ニ還付スルハ勿論ナリト雖モ轉賣シテ其所在ヲ知ル能ハサル贓物ニ係ル損害ヲ乙ナル被害者ノ請求通り丙ナル故買者ヨリ賠償セシム可キ歟又ハ丙ナル故買者ハ乙ナル者ニ直接ニ害ヲ被ムラシメタルモノニ非ス且盜贓タルヲ知ルモ乙ノ家ニ忍入り盜取タル品タルヲハ故買ノ當時知ラサルヲ以テ賠償ヲ拒ムツ條理アル歟

○回答故買者ニ對シ被害者私訴ヲ起シタル時處分方ノ儀ニ付御質議ノ趣右御質議ノ如キ場合ニ於テハ故買者ノ手ニ現存スル贓物ハ被害者ニ還付スルハ勿論假令ヒ故買者カ贓物ヲ賣却シ因テ得タル金錢ト雖モ現在スル時ハ猶ホ贓物トシテ還付シ己ニ費消シタル時ハ刑法附則第五十八條ニ依リ賠償セシムヘキ儀ト考量候

○岡山始審裁判所

(十五年十二月 日質問)

(十六年一月六日回答)

刑法第四十八條ニ云々若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之レヲ被害者ニ還

徵償處分

付ストアリ若シ犯人其贓物ヲ賣却シテ得タル金ヲ所持シ又ハ其贓金ヲ以テ買得シタル物件ヲ所持スル時ハ被害者ノ請求ナキモ之ヲ贓物ト看テ直チニ被害者ニ還付ス可キ歟贓物ノ文字稍穩當ナラサルカ如シ若シ之レヲ犯罪ニ因テ得タル物件ナリトシテ刑法第四十二條ニ照シ沒收セシ歟損害ヲ被リタル者アルヲ措テ論セテ官ニ入ルハ穩カナラス又之ヲ犯人ノ資力ト看做シ下付セン平不正ニ因テ利ヲ得セシムルナリ寧ロ贓物ト看テ直チニ被害者ニ還付スル方法律ノ精神ニ適スルナラン乎

回答犯人贓物ヲ以テ買得交換シタル金圓及ヒ物件ハ被害者ノ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ還付ス

○大河原治安裁判所判事補

十五年十二月九日請訓
十六年一月九日内訓

第一條 贓物犯人ノ手ニ在ラス轉シテ他ニ在リ而シテ被害者ヨリ之レカ還給ヲ請求セサル時ハ之レヲ還付スヘキ道ナキヲ以テ其贓物ハ永ク他人ノ手ニ存置セサルヘカラス然レトモ告ケサレハ理セサル法理ニ因リ之レヲ不問ニ付スヘキ哉

内訓第一條見込ノ通但差押タル物件ニ係ル時ハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スヘシ
第二條 竊盜アリ其盜ニ得ル所ノ贓物ヲ他ニ賣却シ賣代金ヲ所持スル者アランニ其買受ケタル被害者ハ己ニ贓物ヲ事主ニ還給シ爲ニ損害ノ賠償ヲ請求セサル場合ニ於テハ譬ヘ犯人ヲ不正ノ富ヲ致サシムル嫌アルモ猶犯人ノ資力ト見做スヘキ哉右賣代金ノ如キハ刑法第四十三條第三項全第四十四條全第四十八條物件贓物ノ處分トハ自カラ別異セサルヘカラスト思料ス

ルヲ以テ前項ノ如ク見做シ犯人ニ下付スヘキ哉

第二條贓物ヲ賣却シテ得タル金圓ヲ所持スル場合ハ贓物犯人ノ手ニ在ル時ト同視シ被害者ノ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ還給スヘキ哉

○愛知縣

十六年一月十三日判
全 年全月廿三日付

爰ニ某ナル者竊盜ニ罹リ其旨所轄警察署ニ告訴シ併セテ私訴ヲナシタルニ付該署警部ニ於テハ治罪法第九十三條第四項ニ從ヒ其書類ヲ檢事ニ送致シタル處檢事ハ犯罪アリト思料セシ趣ヲ以テ更ニ其搜查方ヲ該警部ニ指揮シタリ然ル后テ數日ヲ經テ告訴人自ラ該物品ノ他ニ典賣シアルヲ發見シ右取戻シ方ヲ所轄治安裁判所ニ訴出タルニ該所ニ於テハ被告人未タ捕ニ就カサレハ公訴未ダ起ラストシテ治罪法第六條ニ從ヒ受理セラレサル趣ヲ以テ更ニ前ノ警察署ニ出願致シ候故其旨檢事ニ申告致シ候處檢事ハ未タ被告人ノ氏名等モ分明ナラサルモノニ付尙搜查ヲ要スル趣ニテ其申告ヲ返却シタリ就テハ假令贓物現在スト雖モ被告人不明ナル時ハ取戻シ方ヲ訴フル途ナキモノ、如シ右ハ通常ノ手續ヲ以テ更ニ民事裁判所ヘ訴フヘキモノニテ該裁判所ニ於テハ刑法附則第五十六條ニ依リ處斷相成ルヘキモノニ候乎如斯類往々有之各裁判所ノ處分上區々ノ様ニモ相見ヘ屢々被害者等ヨリ伺出モ有之甚タ疑惑ヲ生シ候尙至意明瞭之御指揮相成度此段相伺候也

指令伺ノ趣檢事ニ於テ未ダ公訴ヲ起サ、ル以前ニ係ルヲ以テ民事裁判所ヘ出訴スヘキ儀ト心得ヘシ

但シ檢事ニ於テ公訴ヲ起シタル時ハ治罪法第六條ノ規則ニ從フベキモノトス

○栃木始審裁判所檢事

十六年一月卅一日請訓
全 年二月十四日內訓

爰ニ甲吉ナル盜犯アリ兇器ヲ携サヘ乙松宅ニ押入り金拾圓ヲ強取シ尙一兩日ヲ經テ丙次宅ニ忍込入り命貳拾圓ヲ竊取シ爾後尙丁藏宅ニ押入り拔刀ヲ以テ脅カシ金三十圓ヲ強取シタリ因テ甲吉ヲ捕獲シ訊問スルニ右三家ニテ強奪竊取セシ金額ハ被害人三名ノ陳述ト符合セリ然ルニ甲吉ニ於テ乙松方ニテ強取セシ拾圓ノ内五圓ヲ消費シ丙次方ニテ竊取セシ貳拾圓ハ其儘現在シテ丁藏宅ニテ強取セシ三十圓ノ内十五圓ヲ消費シ賍金四十圓ハ甲吉ノ手ニ現在シタリ因テ甲吉ハ刑法第三百六十七條第三百七十九條及ヒ第百條ニ照依シ處分スヘキモ右現在賍金四拾圓還附ノ方法左ニ相伺候

第一項現在ノ賍金ハ物件ト異ナルヲ以テ被告即チ甲吉ノ財産ト同視スヘキモノナル哉

第二項現在ノ賍額ヲ右三名ノ被盜高ニ割合還付スヘキモノナル哉

第三項甲吉陳述ノ如ク丙次方ニテ竊取セシ賍金貳拾圓ノ其儘現在スルニ於テハ右貳拾圓ヲ丙次ニ還付シ乙松ニ五圓ヲ丁藏ニ拾五圓ヲ還付スヘキモノナル哉

第四項本文ノ場合ニ於テ丁藏一人民事原告人トナリタル時ハ現賍金ニ對シテ丁藏ハ先取ノ特權ヲ有スヘキ哉

內訓第二項第三項乙丙丁ニ關スルハ圓明瞭ナル時ハ第三項見込ノ通

權ヲ有スヘキ哉

內訓第四項先取ノ特權ヲ有スルノ限リニアラス

第五項又甲吉ハ竊取セシ貳拾圓ヲ以テ衣類ヲ買入レ該衣類ノ其儘甲吉ノ手ニ現在セシ時ハ被害人丙次ノ請求ナシト雖モ其衣類ヲ賍金ト看做シ丙次ニ下付スヘキ哉

第六項又甲吉ハ戊八方ニテ竊取シタル衣類其他ノ物件ヲ已之助ニ賣却シテ金貳拾圓ヲ得其

内拾圓ヲ費消シ残り拾圓ハ甲吉ノ手ニ現存スル場合ニ於テハ右ノ拾圓ハ戊八ニ下付スヘキ

ヤ又戊八ハ該品買得者已之助ニ對シ取リ戻スノ權利アルモノナレハ戊八ニ關セズ其儘甲吉

ニ還付スヘキヤ又ハ沒收スヘキモノナル哉

內訓第六項前段見込ノ通

○滋賀縣

十六年二月十五日伺
全 年三月廿六日付

第一條 記名公債證書ヲ賣買讓與スル時ハ公債證書發行條例ニ準據シ相當ノ手續ヲ盡スヘキノ處實際民間ニ在ツテハ其手數ヲ省キ證書面ノ記名者ヨリ賣買讓與等ノ委任狀ニ委任者ノ氏名又ハ權限等モ記サス白紙ニ捺印シタルモノヲ添付シ轉賣買スル慣習アリ其慣習手續ヲ以テ株式取引所又ハ諸公債證書賣買ヲ業務トスル國立又ハ私立銀行ノ手ヲ經テ買取シタル後該公債證書ノ賍品タルヲ發覺セリ右ハ株式取引所又ハ銀行等ニ由リ買取シタルモ條例ノ手續ヲ盡サヘルモノニ付法律上公商ノ手ヲ經買取シタルモノト看做スコトヲ得サル哉
指令第一條己ニ株式取引所又ハ銀行等ニ由テ買取シタルモノハ公商ノ手ヲ經テ買取シタル

ノ効力アルモノトス

第二條 甲ヨリ乙ノ所有物ヲ竊取シ丙(公商)ニ賣却シ丙ヨリ丁ヲ經戊へ轉賣シタル後贓物タルヲ發覺スルモ一旦公商ノ手ヲ經タル上ハ被害者ナル乙ヨリ直チニ現在所有者タル戊へ返還ヲ請求スルモ刑法附則第五十五條初項ニ依リ其原價ヲ償ハサレハ還求ヲ拒ムコトヲ得ル哉

指令第二條見込ノ通

○前橋輕罪裁判所判事(十六年二月二十二日請訓)

第一條 爰ニ盜犯人アリ竊取シタル金ヲ以テ物件ヲ買得シ其物件犯人ノ手ニ在ルモ物質ノ變シタル上ハ勿論犯人ノ所有物ト看做スヘキヤ又ハ被害者ノ請求ナシト雖モ刑法第四十八條ニ依リ贓物犯人ノ手ニ現在スルト看做シテ金額ヲ竊取セラレタル被害者ニ還付スヘキ哉

○刑法 第四十九條參看

○宇和島輕罪裁判所(十六年一月八日伺)

重禁錮三月監視六月ニ處セラレタル犯罪事件ニ付檢事ヨリ上告及ヒ大審院ニ於テ上告ヲ棄却シ上告中主刑滿限トナリ直チニ出監ノ處分ヲナスニ際シ監視ハ出監ノ日ヨリ起算シ可然哉刑法附則第三十五條ノ權衡ニヨリ主刑滿限後ノ滯獄日數ヲ監視期限ニ通算シ可然哉指令伺ノ趣出監ノ日ヨリ起算スヘキ者トス

○岐阜縣(十六年二月十七日請訓)

第一條 明治十五年三月三十日當縣監第十九號伺書第二條ニ對シ同年四月十一日電報ヲ以テ逃走罪等審判ノ爲メ未決監ニアル日數ト雖モ刑期ニ算入スヘシト御指令相成タリ右ハ餘罪審問ノ爲メ未決監ニ入りタル日數モ同様ト相考候故例へハ重禁錮二月及附加ノ罰金ヨリ換ル輕禁錮十日ニ處セラレタルモノアリ而シテ重禁錮執行中餘罪發露シ未決監ニ拘留セラレ、間ニ主刑附加刑共其期限經過シタル如キモ其拘留日數ハ都テ刑期ニ算入シ可然哉

内訓第一條既ニ確定シテ執行中ニ係ル刑期ニ付テハ見解ノ通但シ後發罪ノ刑期ニ算入セサルハ勿論ナリトス

第二條 爰ニ明治十四年十二月廿七日自首罪ノ言渡ヲ受ケタルモノアリ檢察官ハ之ヲ不當トシ上告セシニ明治十五年六月三十日大審院ニ於テ該裁判ヲ破毀セラレ當地裁判所へ移サレタルニヨリ明治十六年一月十日右事件審理ノ爲メ拘留相成十六年二月七日重禁錮六月ニ處セラレタリ此刑期ヲ計算スルハ刑法第五十一條第二項第三項ノ趣意ニ從ヒ前判宣告ノ日ヲ以テ起算シ不拘留ノ日數ハ算入シ得サル儀ト心得可然哉

内訓第二條見解ノ通

○刑法 第五十一條參看

○秋田始審裁判所檢事(十六年一月十一日請訓)

刑罰計算

第一條 刑法第五十一條第二項犯人自ら上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算
 ナ云々ト有之設令ハ窃盜罪ヲ犯シ重禁錮ニ處シ監視ニ付セラレタル犯人ハ曾テ盜罪ヲ犯シタ
 ル覺ナキ趣意ヲ以テ上訴スル如キ其上訴ニ付破毀ノ理由ナシトスルモ上訴意外ノ部分擬律ノ
 錯誤等アル場合ニハ原裁判言渡ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ本案裁判言渡アルノ類ハ上訴不
 當ナルモノトナシ後判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘキヤ治罪法第四百二十七條以下ノ法條ヲ
 推究スルニ前顯ノ如キ即チ上訴ニ因リ附帶ノ理由ニ付原裁判言渡ヲ破毀セラルハ上ハ破毀ヲ
 得タルト棄却ニ依リ上訴ノ正當不當ヲ區別致シ可然哉

内訓第一條前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘシ

第三條 服役スル既決ノ囚徒餘罪後ニ發覺シ豫審若クハ公判未決中拘留スル日數ハ刑期ニ算
 入スヘカラサルヤ將々算入スヘキ哉

内訓第二條後段見込ノ通

○刑法 第五十三條參看

○長野縣 (十六年一月十九日伺)

○長野縣 (全) 十六年一月十九日伺
 監視ノ規則ニ違背シタル科ニ依リ刑法第五百五十五條ニ照シ重禁錮若クハ處セラレタル者其重
 禁錮滿期ノ後前監視ノ殘期ヲ執行スルハ勿論ノ處客年十一月十八日付ヲ以テ刑法第五十二條
 中其逃走ノ日數トハ再ヒ捕ニ就キ其逃罪審問中拘留ノ日數ヲモ合蓄スル儀ニ可有之哉又ハ全

ク拘留外ニアル日數ノミニ可有之哉果シテ拘留外ニアル日數トノミセハ捕ニ就キタルヨリ逃
 走罪宣告マテノ拘留日數ハ刑期ニ算入スル儀ト相心得可然哉ノ旨相伺候處后段伺ノ通ト御指
 令相成候ニ付テハ主刑ト附加刑ノ違ヒ可有之モ其刑期計算ニ至リテハ右監視ノ規則ヲ違背シ
 タル廉取調中繫獄セシ日數ヲモ監視期限ニ算入スヘキヤ又ハ該繫獄中其悔改ノ狀ヲ視ルニ由
 ナク到底監視ノ倣ヲ奏スル能ハサルモノニ付之ヲ算入セサル儀ト相心得可然哉
 指令伺ノ趣后段見込ノ通監視期限ニ算入セス

○刑法 第七十一條參看

○平輕罪裁判所判事 (十五年十二月二日請訓)

○平輕罪裁判所判事 (十六年一月卅一日内訓)
 第一條 刑法第七十一條禁錮減盡シタル時ハ云々禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓
 九十錢以下云々ト右減トハ三等迄ノ減等ニシテ短期寡數拘留科料ノ區域ニ入ルモ其長期多數
 ハ猶禁錮罰金ニ亘ル者減盡トハ四等以上ノ減等ニシテ禁錮罰金ノ全盡シタルモノ、如シ果ソ
 然ラハ第七十四條ノ減盡シタル時ハ止ク主刑ヲ科ストハ四等減以上ヲ指ス者ト解釋シ可然哉
 内訓第一條減盡トハ通シテ四等減ノ場合ヲ指スト雖モ減トハ單ニ三等減ノ場合ノミニ限ラ
 サル者トス

第二條 若シ爰ニ十一日以上一年以下ノ重禁錮二圓以上二十圓以下ノ附加罰金犯アラニニ一
 等ヲ減スレハ八日以上九月以下一圓五十錢以上十五圓以下トナリ之レヲ短期寡數ニ處セント

加減例

思量セハ主刑ノ八日ハ第七十一條末項ニ依リ拘留ニ處スルヲ得ヘシ附加ノ一圓五十錢ハ之ヲ罰金トセシカ第二十六條ニ罰金ハ二圓以上トアリテ名ツクルヲ得ス之ヲ科料トセシカ第十條中其日ナシ主刑既ニ拘留ニ入ル第七十四條ニ依リ止タ主刑ヲ科セシカ減盡シタルトアリテ第七十一條ノ如ク減シテ寡數ニ入ルノ例ニアラス又例ナシトシテ附加罰金減盡セサル以上ハ二圓ニ止メ主刑拘留ニ入ルモ尙罰金ヲ併科スヘシト爲サハ第七十四條主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲スノ例徒法ニ屬シ加之會テ法律ナキ附加罰金ハ減シテ二圓以下ニ降ラスト私規ヲ立ルノ嫌アリ然レトモ第七十一條既ニ主刑ノ減シテ短期寡數拘留科料ニ入ルノ例アリ之レカ不足ヲ補フニ第七十四條附加罰金四分ノ一加減ノ例アリ又第九條科料ハ主刑ニシテ第十條附加ニナキ等ヨリ窃カニ其法理ヲ推究スレハ左ノ假令ノ如ク解釋シ如何可有之乎

一 假令減シテ八日以上九日以下ノ主刑ニシテ一圓五十錢以 十五圓以下ノ附加ナランニ其短期ニ處スル時ハ拘留ナル止タ主刑ヲ科シ附加ヲ免除ス

但主刑ノ短期附加ノ寡數等シク拘留科料ニ入タルモノニテ主刑拘留ニ處セハ附加ノ罰金ノ區内ニ登スヲ得ス

二 減シテ七日以上一月十五日以下二圓五十錢以上二十五圓以下ナランニ其短期寡數ニ處スル時ハ拘留ノ上附加罰金ヲ科ス

但主刑短期ハ拘留ニ入ルト雖モ附加ノ寡數科料已ニ入ラサルモノナレハ主刑ノ拘留附加

加テ消スノ効力ナキモノトス

三 減シテ廿二日以上一年六月以下一圓五十錢以上十五圓以下ナランニ其短期寡數ニ處スル時ハ主刑重禁錮ニ處スルモ附加科料ニ下ルヲ以免除シ或ハ二圓以上ノ罰金ヲ附加スルヲ得

但主刑ノ短期拘留ニ入ラサル以上ハ二圓以上ノ罰金ヲ附加スルモ原主刑ニ從フモノナレハ妨ナキモノトス

内訓第二條主刑ハ減シテ拘留ニ下ルモ附加ノ罰金減盡セサル時ハ刑法第七十四條ニ依ル可キ者ニアラス主刑ノ拘留ト附加ノ罰金ト併科スル理ナルヲ以テ第二項見解ノ通

第三項主刑重禁錮ニ處スル時ハ附加ノ罰金寡數科料ニ下ルモ猶罰金ニ處ス可キ者トス

○刑法 第七十三條參看

○東京集治監 (十五年四月廿二日伺 十六年三月十四日付)

當監懲役人幾ニ犯罪有之加役被申付其後功勞アリテ本刑ニ一等被減候者之内別紙甲号宣告書之通零數ヲ除棄セヌ又乙号之通零數ヲ除棄シ又丙号之通零數ヲ除棄セサル者有之右ハ功勞アリテ均シク減等ヲ蒙リ或ハ零數ヲ期限内ニ算入シ或ハ除棄スルハ囚徒ノ不幸ニ關係候ニ付宣告書ニ零數除棄無之候得共明治十年御省指令第五十号長野縣伺御指令ニ準據シ加役候者減等之節零數ハ除棄致候儀ト心得可然哉 (甲号乙号丙号 宣告書ハ零ス)

指令伺ノ趣減等ノ節ハ零數ヲ除棄ス可シト雖モ其裁判確定シタル上ハ大審院ニ於テ其裁判
ヲ破毀スルニ非レハ除棄スルコト得サル儀ト心得可シ但特典減等ニ係ル者ハ此限ニアラズ

○刑法第七十四條參看

○福島始審裁判所平支廳判事 (十六年二月廿六日請訓)
全年全月廿六日內訓

主刑ハ減シテ勾留ニ下ルモ附加ノ罰金減盡セサル時ハ刑法第七十四條ニ依ル可キ者ニアラス
主刑之勾留ト附加ノ罰金ト併科スル理ナルヲ以テ第二項見解ノ通ト然ルニ第二項ハ減シテ七
日以上二月十五日以下二圓五十錢以上廿五圓以下ニシテ其短期寡數ニ處スルハ勾留ノ上附加罰
金ヲ科スルノ例ナレハ寡數科料區々入ラサルヲ以テ更ニ疑團ナク敬承セリ若シ減シ八日以上
九月以下一圓五十錢以上十五圓以下トナリ其短期ニ處セントスルハ如キハ主刑ハ勾留ニ下ス
ヲ得ルモ附加ハ二圓ヨリ下スヲ得ズ即チ二圓ニ止メ罰金ヲ附加ス可キカ或ハ四分一チニ等ト
ナスノ原則ニ依リ一圓五十錢ニ減スルヲ得ルモ其名儀ハ尙附加罰金トシ併科ス可キ儀ナル哉
內訓請訓ヲ趣前段見解ノ通ト

○前橋輕罪裁判所判事 (十六年二月廿二日請訓)
全年三月六日內訓

第二條ハ刑法第七十四條附加ノ罰金ハ云々若シ減盡セタル時ハ止メ主刑ヲ科スルトアルハ附
加ノ罰金ヲ減シテ其長期短期ノ違警罪ノ範圍内ニ在ル場合ヲ云フ歟又ハ附加罰金ヲ減シテ其
長期罰金ノ範圍内ニ在テ其短期違警罪ノ範圍内ニ在ル場合ヲモ減盡シタルトシ止メ主刑ヲ科

ス可キ哉

內訓第二條前段見解ノ通ト

○刑法第七十九條參看

(十五年十二月廿六日再申)
十六年一月廿九日付

○東京輕罪裁判所檢事
刑法第七十九條以下ニ記載セル懲治場留置處分ノ儀ニ付客月廿四日ヲ以及上申候未懲治場留
置ノ處分ハ豫審判事取調ノ上免訴ノ言渡ヲ爲シタル後更ニ檢察官ヨリ公判判事ニ其處分ヲ求
ムル旨御訓示ノ趣敬承仕候然ルニ犯人ノ年齢十三歳未満ナルヤ否又ハ十三歳以上ノ幼者ニ
シテ是非ノ辯別ナクシテ犯シタルヤ否ハ原籍其他相當ノ取調ヲ爲シタル后ニ非テハ之ヲ確
認シ能ハサル儀ニ付司法警察官ニ於テ現行犯ヲ逮捕スルニ當リ其罪荷毛禁錮以上ノ刑ニ該ル
可キ者ナル時ハ其犯狀ニ付キ一應ノ取調ヲ爲シ拘留狀ヲ發シテ其事件ヲ檢事ニ送致シ檢事之
ヲ受ケテ相當ノ取調ヲ爲シタル後法律上其罪ヲ論セサル者ナルコトヲ確認シ得テ且懲治場ニ留
置ス可キ情狀アル者ト思料スル時ハ拘留ノ儘直チニ公判判事ニ其處分ヲ求メ若シ豫審ヲ必要
ナリトスル時ハ則チ豫審ヲ求ムルノ順序ニ有之候抑モ豫審判事拘留ヲ受ケタル被告人ニ對シ
免訴ノ言渡ヲ爲スニ付テハ法律上必ス之ト同時ニ放免ノ言渡ヲ爲ササル可ラス而シテ其言渡
確定ノ期限ハ僅ニ一日ニシテ一面公判ノ爲被告人ヲ公廷ニ呼出スニハ少クトモ二日ノ猶豫ヲ
與ヘサル可カラサル儀ニ付豫審終結ノ言渡確定前即チ一日内ニ於テ懲治場留置處分ヲ結了ス

不論罪及ビ宥恕減輕

ハ實際爲シ能ハサル所ニ有之故ニ豫審判事免訴放免ノ言渡ヲ爲シ其言渡確定シタル上ハ現
 ニ身体ヲ拘束シ教戒ヲ加フルニ非ラサレハ社會ノ治安ヲ害スルノ恐アルモノモ直ニ之ヲ縱放
 セサル可ラス一旦之ヲ縱放シテ其行ノ所ニ任スル時ハ幼者ニシテ故意罪ヲ犯スカ如キ無賴子
 弟多クハ父兄ノ家ヲ脱シ所々安宿等ニ流泊シ又ハ他管ヨリ流寓スル者ニ付之ヲ捜査スル亦容
 易ナラス假令ヒ父兄ノ家ニ定居シ失踪ノ虞ナシトスルモ今日放免セバ其日ヲ出テスシテ再
 罪ヲ犯ス者既往ニ驗スルニ往々之アリ就テハ豫審判事ニ於テ懲治場ニ留置ス可キ情狀アル者
 ト思料スルモ仍ホ免訴ノ言渡ヲ爲サハル可カラサル儀ニ有之候得ハ其失踪又ハ再犯ヲ防キ留
 置處分ニ差支ナカラシメシメカ爲メ左ノ二條ニ付キ何分ノ御詮議ヲ仰キ候
 一豫審判事取調ノ上懲治場ニ留置ス可キ情狀アル者ト思料シタル時ハ其旨ヲ言渡書ニ明示シ
 此場合ニ限り免訴ノ言渡ニ止メ放免ノ言渡ヲ爲サズシテ其事件ヲ檢事ニ送致スル事
 一若シ豫審判事檢事ノ意見ヲ異ニシ免訴ト同時ニ放免ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ檢事ハ仍
 舊懲治場留置ヲ必要ナリト認ムル時ハ急速其處分ヲ公判判事ニ求ムル爲メ暫ク其執行ヲ停
 止スルヲ得ヘキ事
 右ノ如ク相成候得ハ被告人ノ失踪再犯等實際ノ不都合ヲ免カル、ノミナラス法律ノ原旨ニモ
 戻ラサル哉ニ被存候ニ付此段重テ及上申候條至急何分ノ御詮議ヲ仰キ候也
 指令具申ノ趣檢事ニ於テ一日内ニ懲治場留置處分ヲ求ムルヲ得サル時ハ勾留狀ヲ發シ速
 ニ其處分ヲ求ムル様可致候事

(理由)右審案候處本件ハ幼者ノ犯罪ニ付豫審判事ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テ併
 テ放免ノ言渡ヲ爲ス時ハ檢事ニ於テ懲治場留置處分ヲ公判判事ニ求ムルノ餘日ナク實際
 不都合ニ付此場合ニ於テハ豫審判事ニ於テ放免ノ言渡ヲ爲サハルカ又ハ放免ノ言渡ヲ爲
 スモ暫ク其執行ヲ停止スルヲ得可キカ兩様ノ内ニ御決裁ヲ仰クニ在リ然ルニ今檢事上
 申ノ如クスル時ハ豫審判事ハ治罪法第二百二十四條ノ精神ニ背キ檢事ハ裁判ノ執行ヲ遷
 延スルノ恐レモ有之候間此場合ニ於テハ寧ロ檢事ヲシテ留置處分ヲ求ムル爲メ勾留狀ヲ
 發シシムル方法法律ニ違背スル恐レモ無之實際ニ在テモ亦便利ナル可ク考量候但シ懲治場
 留置處分ハ刑ニアラサルヲ以テ拘留狀ヲ發スルハ允當ナラヌト論スル者アレトモ從前度
 々ノ御指令ニテ留置處分ハ殆ト刑ノ姿ヲ爲シ公判判事ニ於テ之ヲ言渡スヲ以テ見ル時ハ
 之ヲ刑ナリト云フモ可ナラン

○松江始審裁判所判事 (十六年二月十六日請訓) 全 十六年三月二日內訓
 瘡啞者ニシテ別段ノ法律規則ニ違犯シ二圓以上ノ罰金ニ該リ輕罪ニ相當スル者ハ刑法第八十
 二條ニヨリ其罪ヲ論スルヲ得サルハ勿論ニ候處若シ之ヲ放ツ時ハ再犯ノ憂アルカ又ハ其罪狀
 大ニ惡ム可キ者ハ仍ホ同條ニヨリ五年以下ノ間懲治場ニ留置シ得可キ者ト考量候處刑事訴訟
 表ニ於テハ別段法律犯者ハ一切別表即第八表ニ編纂致シ而シテ其第八表ニハ懲治場ニ留置ス
 ルノ欄目無之獨リ第一表ニノミ之ヲ設ケテレタルヲ以テ見レハ或ハ瘡啞者別段ノ法律規則ヲ
 犯ス時ハ情狀如何ニ拘ハラヌ懲治場ニ留置スルヲ得サルナランカト疑惑相生ノ候ニ付內訓

不論罪及ビ宥恕減輕

ヲ請候也

内訓瘡腫者犯罪處分ノ儀ニ付請訓ノ趣右ハ前段見解ノ通訴訟表ハ欄外又ハ別紙ニ記載シ調製ス可シ

○刑法 第八十五條參看

○平始審裁判所判事 (十五年十二月質議 十六年一月八日回答)

第三條 火アリ戸長警察一日火事タルヲ知ル趨リ就テ其誰某住居ナルヲ知ル可シ然レトモ未タ放失ヲ辨知セス又失火ト知ルモ火ヲ失シタル者ノ名ヲ知ラサルニ忽チ出テ自首スル者アリ如此ハ自首タルノ宥恕ヲ得可キ乎

回答第三條御見込ノ通

第四條 第五五三九内訓刑法第八十五條發覺トハ官犯人ノ名ヲ知ルト被害者犯人ヲ確認シタル者トノ旨發ニ竊盜ヲ自首スル者アリ被害者ヲ喚起シテ對質スレハ當時某ノ竊取スル所ト爲ルモ即時撞見其贓ヲ還シテ謝ス我ニ害ナク摘發スルニ忍ヒ私和セシモノナリト如此ハ被害者犯人ヲ確認シタルモノニテ發覺ノ部分ナル乎

回答第四條犯人其氏名ヲ知レサル内ニ被害者ニ首服シタル者ハ刑法第八十七條ニヨリ減輕ス可キモノトス

○刑法 第八十六條參看

○奈良始審裁判所判事 (十六年一月廿四日請訓 十六年二月三日内訓)

第一條 刑法第八十六條財產ニ對スル罪ヲ犯シ其贓物ヲ全部又ハ半數以上ヲ還償シテ自首シタルモノハ無論該條ニ的當スト雖モ僻地ノ人民ニ於テハ其贓物還給損害賠償等ニ心附カズ發覺前忽卒ニ自首シタル罪犯ヨリ公訴ヲナスアリ如此類ニ於ケル裁判官ニ於テハ公判ノ節被告人ニ對シ其贓物還給損害賠償ノ如何ヲ審問シ尙ホ犯人ノ資力有無等ヲ其本籍ニ照會然シテ後處斷セサルヲ得ス然ル時ハ空シク日子ヲ消費シ被告人ニ於テモ屢呼出テ受ケ迷惑不少右等ハ固ヨリ起訴ノ手續上ニ係ルヲ以テ檢事ニ於テ右賠償等ノ成否確然タル上公訴スルハ至當ノ儀ト相心得可然儀ニ候哉

内訓第一條檢事ニ於テ贓物還給損害賠償等ノ成否ニ付其取調ヲ爲スノ責ナシ但シ刑法第八

十六條ハ自首ノ際還給賠償シタルモノ及ヒ自首ノ際還給賠償ヲ約シ被害者ノ承諾ヲ得タル

モノニ限リ減輕スヘキモノナルニ因リ公判ニ於テ還給賠償ノ如何ヲ審問スルヲ要セス

○刑法 第九十五條參看

○札幌縣 (十六年一月十六日請訓 十六年二月十二日内訓)

第一條 刑法第九十五條(前)若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ重キ者ヲ執行ストアリ假令ハ玆ニ他ノ府縣ニ懲役七年ノ囚アリテ限内

自首減輕 再犯加重

逃走シ本縣内ニ於テ縛コ就キ刑法第四百二十二條ニヨリ重禁錮一月ニ處セラレタルモノアラフニ先キノ懲役七年ノ役過セシ日數ト殘期若干アル歟ヲ知ルニ由ナキヲ以テ輕キ後ノ重禁錮ヲ先キニ執行スルモ實際不得止ニ付差支無之哉

内訓第一條被告ノ申立ル所ニ從ヒ前判ノ殘期ヲ執行シ速ニ原裁判所ヘ照會スヘシ

○刑法 第百條參看

○茨城縣 (十六年二月三日請訓) 全年全月十二日內訓

刑法第百條ニ重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ストアリ其二罪以上俱發スルトハ例ヘハ竊盜犯人アリ某月某日甲兵衛方ニテ金錢ヲ竊取シ歸途乙丙宅ニテ品物ヲ竊取スル如キ竊盜數次ノ犯罪ヲモ二罪以上俱ニ發スルモノトナス乎前項ノ如キ竊盜數次ノ犯罪ヲモ二罪以上俱發スルモノトナス時ハ違警罪犯人ニシテ例ハ甲所ニ於テ酩酊シ路上ニ喧噪シ又乙所ニ至テ路上ニ喧噪シタルモノ、如キモ二罪以上俱ニ發スルモノトシ刑法第百一條ニ依リ各自ニ其罪ヲ科スル乎

○秋田始審裁判所判事

(十六年三月一日伺) 電報 全年全月五日付

會テ國事犯ノ見込ニテ上申セシ柴田淺五郎外十八名ノ内小松捨次郎保釋中竊盜罪ヲ犯セリ右

ハ前ノ犯罪ニ拘ハラヌ處斷スヘキ哉將審理ノ上擬律案ヲ以テ伺ヒ可然哉

指令國事犯石渡運助以下小松捨次郎ニ及ラ處分ノ指令ハ去月二十六日差出タリ小松捨次郎

ノ竊盜罪ハ先度ノ罪ト數罪俱發例ニ照シ處分ス可シ別段擬律案ヲ以テ伺出ルニ及ハス

○前橋輕罪裁判所判事

(十六年二月二十二日請訓) 全年三月六日內訓

第四條 欠席裁判ヲ受ケタル被告人其裁判確定セサル中亦罪ヲ犯シタル場合ハ刑法第九十一條第九十二條ニ依ラス相當ノ刑ヲ言渡ス可キヤ又ハ刑法第百三條ニ依リ其罪ヲ論セサル哉

内訓第四條 前段見解ノ通明治十五年本省第六六八一号內訓ニ準シ處分スヘシ但欠席裁判

○ニ對スル故障ヲ受理シ同時ニ裁判ス可キ時ハ數罪俱發例ニ依ル

○刑法 第百四條參看

○弘前始審裁判所檢事 (十五年十二月十八日請訓) 十六年一月十一日內訓

甲乙ニ相會シ某ノ家ニ如斯取捨タル物件アリ其中ニ金員幾許アリ往テ之ヲ取ル可シト乙之ニ諾シテ曰ク即チ一朝之ニ臨ミ該金員ヲ竊取シ去レリ之ヲ指揮スル者正犯ナル乎又乙ノ處分ノ如キハ如何

内訓請訓ノ趣甲乙共正犯ヲ以テ論スヘキ者トス

○刑法 第百九條參看

數罪俱發 正犯 從犯

ナリト
甲又はチ駁シ曰ク刑法第八十六條ニ云フ財産ニ對スル罪トハ竊盜詐欺取財ノ如キ者チ指シ放
火罪ノ如キハ此ノ條ニ合蓄セサルヲ以テ燒燬セシ損害ヲ賠償スルモ減等ノ限ニアラスト右甲
乙何レヲ適法ノ解釋ナル哉此段明解ヲ乞ヒ候也

回答自首及ヒ未遂犯減等法ニ付御質問ノ趣右ハ竊盜既遂未遂ノ犯人自首スル時ハ一等ヲ減
シ其既遂ノ贓物ヲ返還スルト未遂ノ財ヲ得サルト事主ニ害ヲ及ホサ、ルハ同一ナリ然ルニ
未遂犯罪ノ條ハ汎ク一般ノ犯罪ニ係ルヲ以テ一等又ハ二等ヲ減スルノ法律ヲ設ク則チ財產
ニ對スル罪其財物ヲ返還シタル等減二等ノ法ト一概ニ論シ難キ場合アレハ必シモ不權衡ト
爲スヲ得テ因テ未遂犯ノ自首スルモノハ刑法第八十六條ヲ適用セスシテ裁判上ノ不權衡ニ
至ラサルノ道アルヘシ且放火罪ノ如キモ刑法第三編第二章中ニ編入アルヲ以テ未遂犯ノ時
ハ竊盜未遂犯ト異ナルヲナシ若シ其損害ヲ賠償スルニ至ル燒燬ハ既遂犯トナルヲ多カルヘ
シ故ニ乙者ノ駁論ハ其當チ得スト考量ス此段及回答候也

○長野始審裁判所檢事 (十五年十一月二十四日伺)

第一條 刑法第二百八條他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者云々其偽造己ニ成リ而シテ書類
ヲ偽造シ之レニ押用セシ如キハ總テ使用シタル者トナシテ處斷シ可然哉將タ其書類ヲ行使ス
ルニ非サレハ使用ヲ以テ論スルノ限リニアラサル乎

第二條 全第二百九條及ヒ第二百十條ニ記載アル證書ヲ偽造シ而シテ之レヲ他人ニ示シ或ハ

其義務ヲ法術ニ請求セシ如キ事ノ成否及ヒ其判決ノ如何ニ不拘兩條ノ既遂犯即チ行使シタル
者ト爲シテ處ス可キ哉將タ其未タ結果ヲ得サル限リハ未遂犯ヲ以テ論ス可キモノナル哉

指令第一條後段伺ノ通

第二條前段伺ノ通
但シ他人ニ示スモ行使ト看做ス可カラサル場合ハ格別ナリトス

(理由) 右ハ偽造證書ヲ證據トナシ裁判所へ差出スモ未タ裁判結了セサル間ハ未遂犯ニシ
テ既ニ裁判結了シ直者タルノ言渡アリタル上ハ己遂犯ナリトノ說ヲナスモノ多シト雖モ
己ニ裁判所ニ偽證書ヲ提出セシ上ハ行使ヲ以テ論ス可シ例ヘハ銀行ノ手形ヲ偽造シ其銀
行ニ至リ之レヲ示シ金圓ヲ受取ラントシテ偽造タルヲ發覺スレハ則チ己ニ行使シタル者
ナルヘシ此ヲ以テ推ス時ハ裁判所ニ訴出タル以上ハ行使已遂ト爲サ、ルヲ得ス若シ該犯
其目的ヲ遂クシレハ偽造ト詐偽ノ二罪ヲ犯ス者ナリ其詐偽罪ノ如キハ未遂犯タル論ヲ待タ
サル者ト考量候

○刑法 第一百十六條以下參看

司法省第一五七号 裁判所

刑法第二編第一章ニ記載セル重罪輕罪ヲ犯スヘキ者ハ有之間敷等ニ候得共倘有之ニ於テハ實
ニ不容易儀ニ候條右等ノ事件ニ關シ告訴告發アリタル時ハ速ニ當省へ申出ヘシ此旨相達候事

皇室ニ對スル罪 官吏ノ職務ヲ行フチ妨害スル罪

明治十六年

一月十七日

司法卿 大木喬任

司法省第二五八号

刑法第二編第二章ニ記載セル重罪輕罪ヲ犯セシ者有之節ハ速ニ當省へ御開申可有之旨今般御達相成候付テハ其時々當省ヨリ指令ノ上處分可相成儀ト御了知可有之此段長官ノ命ニ據リ申進候也

明治十六年一月十七日

名村司法大書記官

裁判所長

同 檢事

御中

○刑法 第四百一十一條參看

○札幌始審裁判所判事

(十五年十二月廿三日請訓)

第二十四年十月本省丁第十八号書記局其他訟庭等ノ掌務必得書第三條訴訟口詰ハ雇員ヲ以テ之ニ充ト有之候處右雇員ノ職務ニ對シ侮辱シタル者ハ刑法第四百二十六條第十二項ニ依リ處分ナルハ輕キニ過キ穩當ナラサルカ如シ右ハ同法第四百一十一條ニ依リ處分致シ可然哉
内訓第二項官吏ニ準ス可キ者ニ於テハ其見解ノ通

但兩項共官吏ニ準セサル者ハ通常人民ト同シク處分ス

○刑法 第五百十條參看

○宇和嶋輕罪裁判所檢事

(十五年十二月廿三日同)

看守護送者等ノ囚徒ニ逃走セラル、ヤ常ニ其解怠ニ非サル旨ヲ陳辨スルハ常情ニシテ途ニ之レカ確証ヲ得ントスルニハ囚徒ヲ逮捕セサレハ他ニ解怠ナリヤ否ヲ証明ス可キノ具ナキニ到レリ素ヨリ其期時ナキ逃囚ノ逮捕ヲ待ツヘカヲサルハ勿論ナレモ其事實ヲ判別スルハ最モ難シ刑法第五百十條看守又ハ護送者其解怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル云々トアルハ水火震災ノ變若シム襲撃兇暴抗スヘカヲサルヲ除クノ外現ニ囚徒ノ在監セサルヲ以テ解怠ヨリ生ジタル証トナシ即チ法ノ推測ニシテ本條原ト如斯キモノト解釋致シ可然哉已ニ右等ノ意見ヲ以テ上告及ヒタル例モ有之候得共逃走事件ニ付テハ屢次有之義ニ付別紙書類爲御參者相添へ至急相伺候也
(別紙略之)

内訓同ノ趣囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル者ト雖モ解怠ニ因ルニ非サルノ証アルモノハ刑法第五百十條ニ依リ處分スルノ限ニアラス

○福嶋縣警察本署

(十六年一月廿五日質議)

違警罪ノ犯者ヲ官署ニ留置中看守者(巡查ヲ云フ)ノ隙ヲ伺ヒ逃走スル者ハ刑法第四百四條ニ依リ處分シ看守者ハ同第五百十條ニ依リ處分スヘキカ將亦犯者ハ不問ニ置キ看守者ハ懲罰

囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

例ニ依リ處分スル義ト心得可然哉

前項果テ後段ノ如ク處分スルモノトセハ該犯者勾留ノ刑ヲ受ケ監獄ヘ勾留中逃走シタルモハ
刑法第四百十二條ニ依リ處分シ其看守者ハ同第五十條ニ依リ處分スルヲ得サルカ如シ然ラ
ハ前項後段ノ如ク處分セス同後段ノ如ク處分スルモハ本項前文ノ場合ハ甚タ不權衡ヲ覺ユ且
前項犯者ヲ不問ニ置クトセハ其理由ハ如何心得可然哉

回答客月廿五日附違警罪犯逃走者及ヒ其看守人處分方ノ儀ニ付御質問ノ趣致承知右ハ未決
ノ被告人官署ニ引致中逃走シタル者及ヒ其看守人ハ刑法ノ問フ所ニアラズト雖モ己ニ勾留ノ
刑ノ言渡ヲ受ケ監獄ヘ勾留中逃走シタル者ハ刑法第四百十二條ニ依リ處分シ又其逃走果シ
テ看守人ノ懈怠ニ出タルノ証アルニ於テハ同法第五百十條ニ依リ其看守人ヲ處分スル儀ト
考量ス

○刑法 第五百五十七條及百六十條參看

○小濱治安裁判所判事補 (十五年十二月廿八日同 十六年一月三十一日付)

第一條刑法第五百五十七條ニ彈藥トアリ同第四百廿五條ニハ火藥トアリ此區別ヲ考フルニ彈藥
トハ軍用ニ供スル爲メ既ニ「パトロン」等ニ製作シタルモノヲ云ヒ未タ「パトロン」等ニ製セサ
ルモ皆火藥ト稱スル儀ニ候哉

指令第一條刑法第五百五十七條彈藥トハ「パトロン」ニ製造セサル火藥モ含蓄スルモノナリ又

第四百廿五條ノ火藥中ニ「パトロン」ハ包含セサルモ「パトロン」中ニハ必ス火藥アルヲ以テ
運搬貯藏等ハ猶同第四百廿五條ニ依ルベキモノナリ

○浦和始審裁判所檢事 (十六年三月三日請訓 同年同月十五日内訓)

第一項 明治五年第二百八十二号布告銃砲取締規則罰例ニ「銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲彈藥類
ヲ窃ニ所持シ且取扱致候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上ケ更ニ五拾錢ノ過料可申付事」及
ヒ明治七年第三百二十二号布告銃砲取締規則違犯ノ者罰例増補ニ「免許ヲ得スノ銃砲彈藥ヲ製
造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以內ノ科料可申付事」トアリ又刑法第五百五十七條ニ「官命ヲ受
ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥云々」同第六十條ニ私ニ所有シタル
者ノ罰例ヲモ明示セリ然ルニ明治十四年第七十二号公布第六條ニ「法律規則中罰例アリト雖
モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス」據レハ右銃砲取締規則ノ罰例ハ自ラ廢滅ニ屬ス
ルモノ、如シ例ヘハ無檢印ノ軍用銃(ケベール)ヲ以テ鳥獸獵ヲ爲ス者アリ其銃ハ則チ陸海軍
ノ用ニ供スルニ足ルヘキモノナルカ故ニ刑法ニ依テ問擬ス可キ歟將タ同第五百五十七條ノ明文
ニ從ヒ製造スルモノ、外ハ總テ右取締規則ニ依リ處斷スル儀ニ候乎

内訓第一項請訓面引例ノ場合ニ於テ無檢印ノ軍用銃ヲ私ニ所有シタル者ハ刑法第六十條
ニ依リ處分スヘキモノトス

第二項 又煙火製造ノ免許商人ニシテ火藥ヲ製造シ(物質脆弱ナリト雖モ多量ヲ用フレハ發彈
ノ効力ヲ生ス)テ販賣シタル者亦陸海軍ノ用ニ供スルニ足ル可キモノト見做シ刑法第五百十

私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

七條ニ問擬ス可キ乎

内訓第二項請訓面火藥ヲ製造シテ販賣シタル者トアリ右火藥トアルハ如何ナル性質ノモノニシテ又如何ナル場合ニ於テ製造シタルモノナルヤ詳細事實ヲ揚ケ更ニ訓示ヲ請フヘシ

○刑法 第七十八條參看

○茨城縣 (十六年一月二十二日伺) 電報
全年一月二十五日付

刑法第七十八條ニ徴兵ニ編入セラル可キ者トアルハ檢査合格ノ者カ又檢査前ニテモ適齡ノ者ヲ指シカ

指令本月二十二日附電報伺ノ趣檢査後ト雖モ未ダ入營前ニ係ル者ハ總テ包含スヘキ者トス但シ陸軍刑法第七條ニ該ルヘキ者ハ格別ナリトス

○宇都宮始審裁判所判事 (十六年一月三十一日請訓)
全年二月十六日內訓

第一條 昨明治十五年七月六日當裁判所檢事ヨリ徴兵適齡ノ者別ニ詐僞ノ所爲ナク唯其徴兵ヲ忌避スル爲メ逃走シタルモノニ付テノ請訓ニ刑法第七十八條ニ依リ處スヘキトノ內訓ニ有之(十五年十月二十八日付)右ハ仮令詐僞ノ所爲ナキモ其忌避ノ情アレハ唯逃走セシノミニテモ直ニ詐僞ノ所爲トナシ處罰スヘシトノ御趣意ニ候哉

第二條 果シ然ラハ其モノ當時負債其他ノ事故アリテ逃走シ或ハ商事ノ爲メ他國ニ至リ夫ヨリ處々徘徊行商シテ遂ニ徴兵檢査ノ期ニ後レ其役ヲ忌避スル者アラハ其徴兵ヲ忌避スルノ情

アリシヤハ尙前條ノ如ク刑法第七十八條ヲ以テ罰シ其情アラサルキハ無罪トナスヘキモノニ候哉

内訓第一條徴兵ヲ免カレン爲メ自己ノ踪跡ヲ隱避シタル時ハ詐僞ノ所爲アル者タルニ因リ刑法第七十八條ニ依リ處分ス

古 第二條他事ヲ以テ逃走シタル者ト雖モ檢査ノ期ニ際シ復歸セサルキハ亦第六條訓示ノ通心

○陸軍省 (十六年一月廿一日照會)
同 年二月廿四日回答

別紙新潟縣伺ノ趣徴集ヲ免レンカ爲メ近鄰縁者等ニ潛匿スルハ即チ刑法第七十八條ノ犯罪ト被考候ニ付伺ノ通指令可致見込ニ候間御省ニ於テ御異存無之候侍ハ御省ヨリ直ニ同縣ニ御指令相成度此段及御照會候也

別紙

徴兵規避者處分ノ儀ニ付伺

徴兵檢査ニ際シ徴兵適齡者逃亡セル旨其父兄ヨリ届出ルアリ然ルニ其實全ク逃亡セルコアラズ縁者若クハ近隣等ニ蟄伏シ一時徴集ヲ免カレタル者ニ有之右等ノ如キハ徴兵令第六十六條中其他詐欺ヲ以テ徴集ヲ規避スル者云々トアルコ恰當セルモノニ付同條末文常律ヲ以テ處分ストアルニ準據シ刑法第七十八條一項ニ依リ處斷可相成者ト相心得可然哉不日徴兵檢査ニ際シ至急ニ要シ候ニ付直ニ電報ヲ以テ御指揮相成度此段相伺候也

明治十六年二月九日

新潟縣令永山盛起

陸軍卿大山巖殿

司法卿大木喬任殿

司法省ヨリ同省へ回答

新潟縣伺徴兵ヲ免レン爲メ近隣縁者等ニ潜匿スル者處分方ニ付御照會ノ趣承知イタシ候右ハ御省御見込ノ通りニテ更ニ異見無之候ニ付本月廿四日電報ヲ以テ同縣へ致指令候條此段及御回答候也

新潟縣へ電報指令 十六年二月二十四日

徴兵規避者處分ノ儀ハ伺ノ通

○刑法 第百八十二條參看

○前橋始審裁判所檢事 (十五年一月廿四日伺) 電報

古金銀即チ金銀價格表ニアルモノヲ偽造シタル者ハ刑法百八十二條ニ依ルカ

指令古金銀偽造者處分ノ件右ハ伺ノ通

○三重縣 (十六年一月廿九日伺) 電報

壹朱銀壹分銀ヲ偽造シテ販賣シ又ハ之ヲ行使シ典賣シテ利ヲ得ルモノハ刑法第三百九十條ニヨリ詐欺取財ノ罪トシテ處刑相成ヘクヤ差掛リタル事件アリ直チニ御指令ヲ仰ク

指令壹朱銀偽造者處分ノ件ハ刑法第百八十二條ニ依ル可キ者トス

○三重縣 (十六年二月十五日具申)

本年一月二十九日電報ヲ以テ壹朱銀壹分銀ヲ偽造シテ販賣シ又ハ之ヲ行使典賣シテ利ヲ得ル者ハ刑法第三百九十條ニ依リ詐欺取財ノ罪ト爲シ處刑可相成哉ノ趣相伺候處全年二月十日壹朱壹分銀偽造者處分ノ件右ハ刑法百八十二條ニ憑ルヘキ者トスト御指令ノ趣承知致候而シテ近年來舊金銀貨ノ内大判小判壹分銀壹朱銀等ノ數種ヲ竊ニ偽造シ販賣スル者アリ隨テ民間ニハ多分ノ偽造古金銀散在シ而シテ其偽造ナルヲ知テ販賣スル者不尠甚タ社會ノ害ヲ爲ス者ニ付犯者捜査上ニ厚ク注意セシメ過般來偽造シテ販賣シ又ハ其偽造タルヲ知テ販賣シ又ハ典賣セシ者數名逮捕告發ニ及タル所安濃津輕罪裁判所ニ於テハ舊金銀貨ハ金屬製ノ物品ト同視シ贗造タルヲ知り質入又ハ販賣スル者ト雖モ其所爲ニ依リ詐欺取財ノ罪トナルヘキモノナシト思惟シ棄却ノ處分ヲ爲シ或ハ証憑不充分トシテ免訴放免ナシタルヨリ被告者ハ刑法ノ罪人トナルヲ知リ所爲ヲ巧ニ包蔽シ益ス横行行使スルノ勢ニシテ僻陬ノ人民ニ在テハ彌以テ欺罔ニ陥ルノ實況ニ有之依テ嚴密偽造者等捜査中ニ候得共安濃津輕罪裁判所ニ於テ前陳ノ如ク處分セシハ今般御指令ノ趣ニ對シ不當ノ處分ト認候處舊貨幣ヲ偽造シ又ハ偽造ノ舊貨幣タルヲ知テ行使スル者ハ刑法第四章第一節ニ據リ處分スヘキ旨至急同裁判所へ御下達相成度此段具申候也

指令具申ノ趣別紙ノ通安濃津始審裁判所へ及内訓候條此旨相心得可シ

貨幣ヲ偽造スル罪

四十二

同日安濃津始審裁判所ノ具申ノ通處分スヘキ旨内訓ニナル

○高知始審裁判所檢事(十六年二月一日請訓)

突ニ紙幣ヲ模擬粗造セシ者ニアリ一ハ寫眞ヲ以テシ一ハ印刷ヲ以テス其紙質寸法略新紙幣ニ似タリト雖モ其全体ニ於ル頗ル粗工拙作ニシテ一見其模造ヲ辨別スヘク百中一モ以テ人ヲ欺クニ足ラサルモノ譬ヘハ坊間貨幣ノ形ヲ擬シテ以テ兒童ノ玩弄物トナシ販賣スル者ノ如キハ到底紙幣ノ全体ヲ完備セサル者ニ付假令該品ヲ製造シ或ハ夜陰燈火ナキニ乘シ或ハ痴兒呆媪ヲ奇貨トシ之ヲ行使シ或ハ賭博場ニ於テ假裝ノ具トナシ或ハ其情ヲ知テ之ヲ取受行使スルアルモ一ニ詐偽取財ヲ以テ之ヲ論シ可然哉又ハ其物品假令公衆ノ信用ヲ害スルニ定ラサルモ其心既ニ紙幣偽造ニ在リ其所爲紙幣行使ノ蹟アルハ究竟漸チ塞キ心ヲ誅スルノ法理ヲ以テ其精粗ト完否トニ論ナク刑法第百八十二條乃至第百九十三條ニ問ハサルヲ得サル儀ニ可有之哉
内訓請訓ノ趣貨幣ヲ偽造スルノ目的ニ出ス玩弄物トシテ製造販賣スル者ハ貨幣偽造ヲ以テ論スルノ限ニアラス之ヲ買受ケ行使スル者ハ詐欺取財ヲ以テ論スルノ場合アルヘシ但賭博場ニ於テ假裝ノ具ト爲シ或ハ其情ヲ知テ之ヲ收受シタル場合ハ詐欺取財ヲ以テ論スルノ限ニアラス

○前橋始審裁判所判事(十六年二月一日請訓)

度々人ニ囑託シテ古金銀ヲ贗造シ典物ト爲シタルモノアリ右ハ通貨ヲ偽造スルモノト情狀異ナルヲ以テ刑法第百八十二條ニ照シ處分スルヲ得ス而シテ刑法中之ヲ科スル正條ナシ然レト

モ其所爲タル要スルニ詐偽取財ヲ圖ルニ外ナラサルモノナレハ刑法第三百九十條ニ依リ處分スヘキモノカ且其受託者ハ壹個何錢トシテ其作料ヲ受ケタレトモ詐偽取財ト謂フ可カラサルニ付同條ニ依リ處分スルハ允當ナラサルヲ覺フサスレハ何等ノ修ニ依リ處分スヘキ乎

内訓請訓ノ趣囑託者受託者共ニ本年第七三三号内訓ノ通心得可シ

○神戸始審裁判所判事(十六年二月廿七日請訓)

爰ニ半錢銅貨ノ半ノ字畫圖ヲ削リテ十錢ニ作り(其縁邊ノ摸樣等ハ改作セス又)之レニ水銀ヲ以テ銀色ヲ付シ十錢銀貨ニ變作シテ行使シタル者アリ(二百枚換一圓ノ六字ヲ存ス)

右ハ素ト銀質ニアラサルモノヲ以テ銀貨ニ作リタルモノナルニ付刑法第百八十二條第一項銀貨偽造ノ犯罪者ト爲スヘキモノ、如シト雖モ偽造貨幣ハ其方法構造ノ大ナルヨリ其危害又大ナルヲ以テ重キ無期刑ニ處スルモ變造ハ其方法ト害ノ偽造ノ如ク大ナラサルヨリ數等ノ輕キ輕懲役ニ處スルノ主意ナラン本案犯者ノ行爲ノ如キハ其方法ト害ノ偽造ヨリ小ナルヲ瞭然ニ有之佛國刑法ニ於テハ第百三十二條ヲ以テ贗造變造ハ共ニ同一ノ重キ無期刑ニ處スルヲ以テ本邦變造者ノ刑ヨリ重ク罰スルモ其色付ケノ如キヲ同法第百三十四條ヲ以テ僅カ六月以上三年以下ノ禁錮ニ過キス本邦刑法ニ此色付ケ等ノ正條ナキハ偽造變造ノ二種ニ止メ其色付ケ或ハ文字改作等ハ皆變造ノ部ニ包括スルノ律意ナランカ又其由來スル所ノ舊法施行ノ時ニ在テハ本案ト同シ犯者ヲ改定律例第二百五十一條ヲ適用シタル御指令并ニ審判例モ有之且前ニ陳辨スル方法危害ノ差別等ヲ推究スレハ此犯者ヲ偽造罪ニ處スルハ過酷ニシテ其權衡ヲ失スル

ノミナラス偽造變造罪ニ刑ノ輕重ノ區別ヲ爲シタル法律ノ精神ニ適セサルモノト思考仕候
右犯者ヲ刑法第百八十二條第二項ヲ以テ處スヘキ見解ノ當否ニ付仰御訓示候也

内訓請訓ノ趣刑法第百八十二條第二項ニ依リ處分スル儀ト心得ヘシ

(理由)右ハ銅貨ヲ銀貨ノ様ニ色ヲ付ケタマデノモノハ詐欺取財ノ罪ナル場合モナキニ非
サルヘシト雖モ請訓函ノ如キハ其文字ヲ削トアル上ハ之ヲ變造ト爲サ、ルヲ得ス

○刑法 第百八十六條及ヒ第百九十三條參看

○岡山縣 (十六年三月九日同)

本年三月御省第七三三號ヲ以舊金銀貨幣價格表ニ掲載スル金銀ヲ偽造シテ行使スルモノハ刑

法第百八十二條ニ依リ處分スヘキ旨御内訓有之右ハ單ニ行使セシモノ、ミチ指ス義ニテ原來
舊貨幣ハ明治七年第九十三號公布及ヒ同十二年大藏省甲第百三十三號布達ニテ租稅其他一般
ノ公納ニ充ルヲ得ヘキ旨定メラレタリト雖モ又右公布ニテ人民互相ノ取引廢止サレシニ因
リ使用ノ便否ニ於ケル現貨幣ト頗ル庭徑ヲ生シ彼是同一視スヘカラサル理由アルヲ以テ假令
之ヲ偽造スルモ未タ行使セサルモノハ刑法第百八十六條以下ニ依ルノ限リニ無之哉將タ行使
セサルモ偽造若シクハ豫備ヲ爲シタルモノハ刑法第百八十六條以下ニ照シ處分スヘキ儀ニ候哉
指令後段伺ノ通

○新潟始審裁判所新發田支廳檢事

(十六年二月廿三日請訓)
全 年三月八日內訓

偽造ノ古金銀貨幣(即チ舊金銀貨幣價格表ニ掲載セル安政二分判又ハ壹分銀ノ類ニテ久シク
轉帳シ來リ今其偽造者ヲ發見スルコト能ハサル者)ヲ真物ト詐リ時價ヲ以テ他人へ賣却スル者
アリ右ハ刑法第三百九十條ハ欺罔シ財物ヲ騙取スル者ヲ以テ論スヘキ儀ト心得居候處今般
第七百三十三號御内訓ニ依レハ前顯犯罪者ノ如キモ情狀ニ依リ刑法第百九十條若シクハ第百
九十三條ニ依リ處斷スヘキモノ、如ク聊カ疑義ヲ生シ候ニ付左ニ仰御内訓候
第一條 偽造ノ古金銀貨幣タルコトヲ知シ廉價ニ買取シ之レヲ真物ト詐リ時價ヲ以テ他人へ賣
却シタル者ハ刑法第百九十條ニ依リ處斷スヘキ儀ニ候哉
第二條 古金銀貨幣ノ偽造物タルコトヲ知ラスシテ並通相場場ヲ以テ買取シタル后チ偽造タルコ
トヲ發見シタル分若シクハ先代ヨリ持傳ヘタル古金銀貨幣ノ偽造物タルヲ知リテ之ヲ真物ト偽
ハリ時價ヲ以テ他人へ賣却シタル者ハ刑法第百九十三條ニ依リ處斷ス可キ儀ニ候哉
内訓請訓ノ趣第一條第二條共見込ノ通

○刑法 第百九十五條參看

○奈良始審裁判所判事 (十六年一月廿四日請訓)

第二條 刑法第百九十五條各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處スル
トアリ戸長役場ノ印ニ於テハ其効力ニ至リ稍厚薄アリト雖モ同第二百四條ニ公債証書地券其
他官吏ノ公証シタル文書ハ云々輕懲役ニ處ストアリ果シテ然ラハ戸長役場印モ地所質入書入

官印ヲ偽造スル罪

賣却等ノ各証書ニ押捺スヘキ公印ナルヲ以テ官署ノ印中ニ含有シ居ル儀ト相心得可然儀ニ候哉

但シ判任官以上ハ勿論巡查或ハ戸長等ノ役印ヲ偽造シタル者モ本文同様相心得可然哉

内訓第二條見込ノ通

○岐阜始審裁判所檢事 (十六年二月十日請訓)

同年同月廿六日内訓

第一條 官印ヲ偽造スルニ其字畫毫モ眞印ト撰テ所ナキモノ一ニノ缺失アルトキハ刑法第百九十五條ニ掲クル偽造罪ハ構造セサル平例ヘハ何縣何郡何村戸長役場ノ印トアル印章ヲ偽造スルニ當リ他日其罰責ヲ避ケン爲メ故ニ之印ノ二字ヲ省キ殘ル何縣何郡何村戸長役場ノ九字ハ眞印同一ノ字體ニ模造シ又ハ之レニ反シ増加シタルモノ、類

第二條 官印ヲ偽造スルニ其印面ノ字句員數同一ナルモ其字體字畫ヲ異ニスルキハ前條同様偽造罪ハ構造セサル平例ヘハ眞印ハ隸篆ナルヲ楷草ニシ又タハ多少字畫ヲ變換ノ類 (村ヲ郵ニ換フ)

内訓第一條第二條假令印章ノ文字ヲ少シク變換シタルモ實際官印ヲ摸擬シタル者ニシテ眞印ト誤認シ易キ者ト認定ス可キ場合ニ於テハ刑法第百九十五條ニ依リ處分ス可シ

(理由)眞印ト少シク異ナル所アル者ハ行使スルモ無効ニ屬スルヲ以テ官印偽造トハ爲スヘカラサルカ如クナレハ實際上ニ就テ考フレハ眞印ト少差アルモ眞印ト誤認シ易キ者ヲ官印偽造ト爲サ、ル時ハ狡猾ノ徒之ニ乘シ奸詐ヲ逞シ良民ヲ害シ其幣ヲ遂ニ底止スル所

ナキニ至ラン殊ニ法律ノ精神モ亦此ノ如クナル可シ因テ本文ノ如シ

第三條 官印ヲ偽造スルニ其印面全部ヲ必要セサル場合ニ於テ其幾部ヲ偽造シ以テ全部偽造同一ノ効力アラシムルモ幾部ノ偽造ニ止ルキハ前條同様偽造罪ハ構造セサル平例ヘハ不動産書入質ノ證券ヲ偽造スルニ當リ該證券ノ如キハ戸長役場印ノ割印ノミヲ以テ入ノ信憑ヲ得ルモノナレハ戸長役場印ノ半面即チ岐阜縣厚見郡今泉村戸長役場ノ印トアル十五字ノ下半部

斯ノ如キモノヲ彫刻押捺シ恰モ正當公證ノ如ク虛偽ノ信用ヲ懷カシムルノ類

内訓第三條半面ヲ偽造スト雖モ其半面ヲ以テ効用ヲ爲スニ足ル目的ノ者ハ全部ヲ偽造シタル者ト同視スヘシ

(理由)半面ヲ以テ半面ノ効用ヲ爲ス可キ場合ニ於テ若シ其必要トスル半面ヲ偽造シタル者ヲ未遂罪ト爲ス時ハ到底已遂罪ト爲ル可キ者ナキニ至ル可シ故ニ本文ノ如キハ官印偽造ヲ已ニ遂ケタル者ト爲サ、ル可カラス

第四條 官印全部ヲ偽造スルニ當リ意外ノ障礙等ニ遭遇シ爲メニ一班ノ偽造ニ止リシキハ偽造未遂トナシ刑法第百九十五條ニ依リ同第百十二條ニ照シ處斷スヘキ平果シテ然ラハ當初全部ノ偽造ニ出テス僅カニ前ノ如キ半面ヲ偽造セシトモ同様處斷スヘキニ似タリ抑有形罪ナル官印偽造ハ全部ノ模造完備シ初メテ犯罪ヲ構造スルモノニシテ是レ等ハ未タ偽造像備ノ所爲トナシ處斷スヘキモノニ非ルモノ、如クナレハ爰ニ彫刻師アリテ其情ヲ知ツテ過當ノ彫刻代ヲ貪リ戸長役場ノ印ノ全部ヲ偽造セントシ其彫刻中急遽ノ事ニ遮ラレ全部ノ彫刻ヲ遂ケス既

ニ彫刻セシ半面ヲ以不動産書入質ノ偽造證券ニ押捺シ其目的ノ遂ケシメタルノ類ハ偽造罪ハ
構造セサルカ

内訓第四條前條ノ内訓ニ依テ了解ス可シ但其偽印未タ効用ヲ爲ス可カラサル者ハ官印偽造
ノ未遂犯ト爲ス可シ

○刑法 第二百三條及第二百四條參看
十五年十二月十六日伺

○弘前輕罪裁判所檢事
十六年一月八日付

第二條 官文毀棄

明治十五年一月十九日付ヲ以テ當裁判所ヨリ民事裁判執行及ヒ民事裁判所ノ命令ヲ拒ム者處
分方ニ付及請訓候處其第四項ニ身代限ノ揭示ヲ本人自ラ剝取リ又ハ毀棄シタルキハ刑法第四
百二十九條第十五條ニ依ルノ外他ニ正條無之様存候得共右十五項ノ主義タルヤ人民ヨリ貼付
報告シタル類ヲ云フモノニシテ官ヨリ公示シタル者ハ此内ニ含まサルヤ若シ含まサルトセハ
右等ノ者ハ罰スヘキ正條無之者ニ候哉ト訓示ヲ仰キタルニ刑法第二百三條第二項ニ依リ處斷
スハ御訓示相成タリ若シ右等ノ件實際舉行相成居候テハ前掲御達第二條法律ニ正條アリト雖
モ其刑重クシテ罪惡ノ度ニ適當セサルモノト思料被致候事

指令上申ノ趣目下事件之レアルニ於テハ現在ノ法律ニ依リ處分スヘシ

○茨城縣
十六年一月十三日伺
全年全月三十一日付

第一條 使丁小使脚夫等官衙ノ往復ノ文書并ニ人民ニ通達スル書狀ヲ開封シ又ハ開封ノ後糊
封故ノ如クシタル者ハ毫モ毀損ノ狀ナキモ刑法第二百三條ニ依リ處分ノ義ト相心得可然哉

第二條 前條送達ノ賃錢ヲ受ケス全ク德義上ノ受托ニ出タル時ハ法律ノ責任ナキヲ以テ無罪
ト相心得可然哉

指令第一條第二條送達ノ賃錢ヲ受ケルモノト否トヲ問ハス官衙ヨリ發シタル書狀ヲ開封シ
タル時ハ刑法第二百三條第二項ニ依リ處斷ス但酌量減輕スルコトヲ得

第三條 第一條ノ場合ニ於テ交互ノ私書ニ係ル時ハ其賃錢ヲ受ケルモノニ限リ明治十五年太
政官第五十九号布告郵便條例第二百三十四條ニ依リ處分スル義ト可心得哉將タ郵便條例ニ依
リ處分スヘキ性質ニアラス且ツ他ニ罰例ナキヲ以テ賃錢ヲ受ケサルモノト同シク無罪ト相心
得可然哉

指令第三條私書ヲ開封シタル者ハ刑法ノ問フ所ニ非ス其郵便物ニ係ルキハ明治十五年第五
十九号布告郵便條例第二百三十四條ニ依リ處斷ス

但シ該條例第六十七條ニ違背シ賃錢ヲ受ケ書狀ヲ送達スル場合ニ於テハ同條例第二百三
十條ニ依リ處斷ス

○茨城縣
十六年一月廿九日伺
全年全月廿二日付

甲某乙某ノ切ニ巡查ダランコトヲ欲スルヲ視ヒ知リ某ノ精神ノ充分ナラサルニ乘シ之ヲ愚弄ス
ルノ目的ヲ以テ左ノ文書ヲ偽造シ之ヲ乙某ニ付シタリ其文ニ曰ク其方儀巡查志願ノ旨何ノ某

ノ申出ニ因リ則チ無試験ニテ二等巡査拜命被致候條何月何日午前何時某警察署ニ印形持參可罷出者也某警察署長何某ト署シ而シテ甲某自ラ某ノ實印ヲ捺シタリ幾ナラスノ其事顯ハル之ヲ處分スルニ當リ意見ニ岐ニ分ル

第一說 官衙ノ名稱ヲ署シタル文書ヲ偽造シタルモノハ國家ノ威嚴ヲ輕侮シ社會ノ秩序ヲ紊亂セシモノナレハ其偽造セシ文書ノ眞個ノ文書ニ擬做セルト否トニ拘ハラヌ刑法第二百三條ニ擬セサルヘカラス

第二說 文書偽造ハ眞個ノ文書ニ擬做セルモノヲ謂フ今茨城縣ニ於テ巡査志願者ニ發スル召狀ヲ見ルニ御用有之候條何月何日禮服着用出頭可致者也茨城縣トアリ而本犯偽造セル所ノ文書ハ翹ニ擬似摸倣ノ實ナキノミナラス署スベカラサルモノ、名ヲ署シ捺ス可ラサルモノ、印ヲ捺シ記載ヲ要セサル文字ヲ記載シ毫モ文書偽造ノ條アルヲ見ス如何ソ之ヲ刑法第二百三條ニ問フベケン哉

指令伺ノ趣刑法第二百三條ノ問フ所ニアラス但偽造文書中警察署長ノ名ヲ署シ自ラ印ヲ捺シタルハ官職ヲ詐稱シタルモノナルニ因リ刑法第二百三十二條ニ依リ處分スヘキ者ト心得ヘシ

(理由)右ハ一時ノ戲謔ニ出シモノナレハ之ヲ不問ニ措クハ他ニ此ニ類スル事件アリテ亦之ヲ放擲セサルコト得ス然レハ頗ル弊害ヲ醸スコト無シト謂ヒ難シ故ニ之ヲ罰セントスレハ官ノ文書ヲ偽造スル罪ニ擬スル適當ノ如シト知モ該條ハ嚴刑ニシテ此事實ニハ方柄

圓鑿ヲ免レサル所アリ因テ止ムコトヲ得ス官職詐稱ノ刑ヲ科セントス然レモ本件ハ其詐テ官職ヲ記セシニ自己ノ實印ヲ捺セシニ因リ自己ノ姓名ノ上ニ官名ヲ詐冒セシト同シク論スルモ若シ實印ヲ捺セサルハ官文書偽造ノ外ニ正條ナシ是ノ如キ類ハ其事件ノ生スル所ノ詮議ニ讓ル

○德嶋始審裁判所判事 (十六年一月廿七日請訓) 電報

刑法二百三條官ノ文書ニハ刑法附則二十五條內務省明治十五年乙十九号達シニ因リ行政官犯人ニ附與スル旅行權ヲ偽造又ハ増減變換シ行使シタル者モ包含スルカ

內訓本月廿七日付電報請訓面ノ如キハ刑法第二百三條ニ包含スルノ限ニ非ス但情狀ニヨリ第百五十五條ニ依テ處分スルハ格別ナリトス

○岐阜始審裁判所檢事 (十六年二月十日請訓) 同年同月廿六日内訓

第五條 刑法第二百四條ニ掲グル官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造行使スルニ當リ該偽造行使スルニ當リ該偽造證書ヲ行使シ其實ナル詐欺取財等ノ目的ヲ遂ケシテ以テ初メテ偽造行使ノ既遂ト爲スヘキ乎然ルモ元素社會ノ靜謐即チ信用ヲ害スル犯罪ナレハ其取財ノ目的ヲ遂ケシヤ否外人ノ信不信ヲ論セス一トタヒ社會即チ外人ノ手ニ觸レシ上ハ直ニ偽造行使ノ既遂ト爲スヘキニ似タリ例ヘハ不動産書入質ノ證券ヲ偽造シ債主ニ差入ル、ニ當リ債主一且其偽造タルヲ知り直ニ排斥官署ニ告發シ又ハ債主一時信用スルモ未タ其目的ヲ遂ケサルニ外人覺察告發シ又ハ該偽造證券ヲ以テ審廳ニ訴訟ヲ喚起スルモ遂ニ其目的ヲ遂ケサルノ類

官ノ文書ヲ偽造スル罪

内訓第五條未タ詐欺取財ノ目的ヲ達セサルモ偽造証書ヲ眞証書トシテ他人ヲ害スルノ意ヲ以テ之ヲ交付シタル以上ハ其目的ヲ遂ケタルト否ニ拘ハラズ已ニ行使シタル者トス但其交付セラレタル者即時ニ偽造証書タルヲ覺知シ之ヲ排斥シタル場合ノ如キハ未遂犯ト爲サ、ル可ガラス

(理由)刑法ニ記載シタル行使ノ文字ハ其目的トスル事ヲ遂ケタルト否ニ勾ハラサル者ニシテ若シ其目的ヲ遂ケタル時ハ又一ノ犯罪ヲ構造スル者アルハ刑法第三百九十條末項ニ明文アルヲ以テ知ル可シ

○京都始審裁判所檢事 (十六年二月八日請訓) 同年三月十二日内訓

刑法第二百三條ニ謂フ所ノ官ノ文書トハ官署ニ備置モノ又ハ官署ト官署ニ往復スル公文書ニ限ル義ニシテ裁判所ヨリ訴訟關係人へ對シ發付セシ召喚狀或ハ監視人へ對シ警察官ヨリ交付セシ監視票等ノ類ハ假令ト官署ノ印ヲ押捺シタルモ人民ニ於テ己ニ之レヲ收受セシ上ハ官文書ノ性質ヲ脱シタルモノト看做サル、ヲ得サルモノニ付收受セシ人民ニ於テ之レヲ増減變換行使シ或ハ毀棄スルモ刑法第二百三條ヲ以テ罰スルノ限リニアラサル義ト相心得可然哉
内訓請訓面ノ如キハ刑法第二百三條ニ依リ處分スルノ限ニ在ラス但監視票ヲ棄毀シタルニ因リ監視規則ニ違背セシ廉アルニ於テハ刑法第一百五十五條ニ依リ處分スルハ勿論ナリトス
(理由)偽造證書ナルモノハ文書ノ眞實ヲ變換スルヲト害ヲ醸スノ意思ト害ノ生スヘキトトノ二者具備シタル上ニアラサレハ偽造證書ノ罪ヲ組織シタルモノニ非スト論定シ可然

尤場合ニ因テハ三者完備セサルモ偽造ノ罪ヲ免レサルヲモアルヘシト雖モ本件ノ如キハ右ノ通り

右内訓ニ先チ司法書記官ヨリ左ノ往復アリ

○京都始審裁判所檢事へ照會 (明治十六年) 二月十四日
本月八日付ヲ以テ刑法第二百三條ノ疑義ニ付司法卿へ御請訓相成候處請訓面人民ニ於テ召喚又ハ監視票ヲ收受シタル後之ヲ増減變換シテ行使ストアルハ如何ナル場合ニ有之候哉場合ニ依リ同條ニ依リテ處分セサルヲ得サルヲモ可有之思考候條詳細御申越相成度此段及御照會候也

○京都始審裁判所檢事ヨリ回答 (明治十六年) 二月十九日

第八〇貳號ヲ以テ御照會ノ趣了承隨テ曩ニ司法卿へ請内訓候刑法第二百三條ノ疑義ニ掲ケシ事項ノ受合ハ左ノ通り
裁判所ヨリ發付セシ召喚狀ヲ増減變換シテ行使セシトハ甲ヨリ乙へ係リ貸金催促ノ勸解ヲ某治安廳へ出願セシニ依リ治安廳ハ某ノ日ニ出願ス可キ旨ノ召喚狀ヲ作り乙へ發付シ乙ハ之レヲ收受セシ後ハ該勸解件ハ熟議ヲ遂ケ願下ケテ爲シタリ然リ而シテ乙ハ丙ナルモノへ對シ遺恨トスル條項アリタルヨリ丙ニ損害ヲ蒙ラシメントノ目的ニテ乙ヨリ丙へ係リ貸金催促ノ勸解ヲ出願セシ体ニ仕爲シ曩ニ收受シ烏有ニ屬シタル召喚ニ記載シアル乙ノ姓名ヲ丙ノ姓名ニ及ヒ年月日ヲ變換シ丙へ交付シ用ナキノハテシテ治安廳へ出願セシメタルモノヲ謂フ警察官

官ノ文書ヲ偽造スル罪

ヨリ監視人へ對シ交付シタル監視票ヲ毀棄セシトハ監視票ヲ攜帶シ之レヲ他人ニ認メラレル時ハ監視人タルヲ分明ニシテ公衆ヨリ擯斥ヲ受クルノミナラス擅ニ旅行ノ自由ナラサルヲ憂へ竟ニ監視票ヲ破毀シテ河流へ投棄セシモノヲ謂フ

○刑法 第二百八條參看

○岡山始審裁判所判事 (十六年二月 質議) 十六年全月十三日回答

爰ニ甲者アリ乙者ノ實印ヲ偽造シ以テ貸金証書ヲ詐爲シ又他人ノ實印ヲ盜用シ之ヲ受人ノ如クニ爲シ其証書ヲ以テ或ハ治安廳ニ勸解ヲ願出或ハ警察署ニ説諭ヲ願出タル未終ニ始審廳ニ訴訟ヲ爲シタリ於茲其乙者ハ金圓借用セシ覺ナキヨリ甲者ニ對シ告訴ニ及ヒ遂ニ其証書ノ偽造物タルヲ發露シ公判ニ付セラレタリ然ルニ裁判官ト檢察官ト法律適用ノ意見ヲ異ニシ檢察官ハ假令出訴ニ及フモ未タ審理中ニシテ裁判結了セサレハ未遂犯ナリト言ヒ裁判官ハ私訴私書偽造ノ罪ハ元來信用ヲ害スル罪ノ中ニアリテ財産ニ對スル罪トハ殊別アリ尙シ裁判結了シ其金員ヲ得ルニ至レハ即チ詐欺取財ノ罪ト並發スル者トナル甲者ガ既ニ其偽造ノ証書ヲ證據ト爲シ勸解ニ説諭ニ訴訟ニ出タルハ乃チ之ヲ行使シタルモノニシテ社會ノ信用モ亦害シタルモノナリト言フ右未遂已遂ノ區別如何

回答私印私書偽造未遂已遂ノ件ニ付御實議ノ趣右ハ偽造証書ヲ證據ト爲シ裁判所へ差出スモ未タ裁判結了セサル間ハ未遂犯ニシテ已ニ結了直者タルノ言渡アリタル上ハ已遂犯ナリト

ノ説局中ニ於テハ多數ヲ占レヒ鄙考ハ之ニ異ナリ己ニ裁判所ニ偽証書ヲ提出セシ以上ハ行使ヲ以テ論スヘシ譬へハ銀行ノ手形ヲ偽造シ其銀行ニ抵リテ之ヲ示シ金圓ヲ受取ラントシテ偽造ノヲ發覺ス是又己ニ裁判所ニ訴出タルキハ行使既遂ト爲サ、ルヲ得ス若シ該犯其目的ヲ遂レハ偽造ト詐僞ノ兩罪ヲ犯スモノナリ詐僞罪ノ如キハ未遂タルハ論ヲ待サルナリ尙ホ岐疑モ候ハ、表立御伺出相成可然ト存候此段及御回答候也

○磐井始審裁判所判事 (十五年十二月廿六日 請訓) 十六年二月六日内訓

本年太政官第八号布達ニ依リ伊勢神宮ニ於テ頒布スル本曆畧本曆及該曆ニ貼付スル神宮司廳ノ印紙ヲ贗造販賣シタル者ハ出版條例罰則第二條ニ該ル可キモノカ

内訓請訓ノ趣本曆畧本曆ヲ贗造販賣スルモノハ見解ノ通神宮司廳ノ印紙ヲ贗造スルモノハ私印偽造ヲ以テ論スヘキモノトス

○刑法 第二百十五條參看

○秋田始審裁判所判事 (十六年 月 日 請訓) 十六年二月廿七日 内訓

刑法第二百十五條ハ公務ヲ免カル可キ爲メ疾病証書ヲ醫師ノ氏名ヲ用ヒテ自ラ偽造行使シタル者ト醫師囑託ヲ受ケテ詐僞ノ証書ヲ造リタル者ト二者ノミニシテ醫師ニ囑託シテ詐僞ノ証書ヲ造ラシメ行使シタル者ハ含有セサル様相見候試ニ佛蘭西刑法第五百十九條及ヒ第六十條ヲ閱スルニ公役ヲ免カル可キ爲メ疾病証書ヲ醫師ノ偽名ヲ用ヒテ自ラ造ル者ト醫師之レ

免狀鑑札及ヒ疾病証書ヲ偽造スル罪

ヲ造ル者ト醫師贈遺約束ニ因テ之ヲ造ル者ト贈遺約束ニ因テ之レヲ造ラシメタル者トノ四者
ノミヲ科罰シ贈遺約束ニ因ラスシテ醫師ニ之レヲ造ラシメタル者ハ敢テ科罰セサル者ノ如ク
ニ有之是ニ依テ之ヲ觀ルモ醫師ニ囑託シテ造ラシメ行使シタル場合ニ於テハ獨リ醫師ノミヲ
科罰スル律意ト被考候得共聊カ疑義ヲ生シ候ニ付此段請内訓候也
内訓請訓ノ趣囑託者ハ刑法第二百十五條第一項ニ依テ處斷スヘキモノトス

○刑法 第二百十八條參看

○甲府始審裁判所判事 (十六年三月十日請訓) 同年同月廿日内訓

第一項 客年十月廿八日附ヲ以テ總テ官吏ヲシテ職務ニ關スル事件ニ付証明セシムル爲メ其
呼出ヲ要スルハ本年當省丙第十号達ニ準シ取扱可キ旨御達相成候處其丙第十号御達ニハ書
記局ヨリ報知書ヲ以テ出庭セシメ宣誓セシムルニ及ハストアリ右ハ官吏タルノ故ヲ以テ取扱
上特ニ常人ト別異スルノミ其陳述ノ効力ニ至テハ常人ノ誓言ト異ナルヲ無キ者ト存候果シテ
然ラハ其官吏豫審又ハ公判ニ於テ偽証ヲ爲シタルハ勿論偽証律ニ問擬ス可キモノ、如シト
雖モ抑偽証ノ法タル即チ破誓律ニ原ト治罪法ノ規則ニ從ヒ宣誓ヲ爲シタル者ヲ待ツノ法意
ト解釋致候ヘハ其宣誓ヲ爲サル者ニ至テハ之ヲ偽証律ニ問擬スル或ハ如何ト疑テ生シ候
第二項 前文ノ官吏書記局ノ報知ニ應セサルハ如何處分ス可キ哉
内訓第一項ノ偽証罪ノ各本條ニ依リ處斷スヘシ

第二項其本屬長官ニ照會シテ出庭セシムヘシ

(理由)按スルニ宣誓ヲ爲スヘキノ常人ニシテ宣誓ヲ爲サスシテ詐僞ノ陳述ヲ爲シタルモ
ノハ其陳述ハ證據ノ性質ヲ有セサルヲ以テ偽證罪ヲ以テ論スルヲ得サルハ勿論ト雖モ宣
誓ヲ爲スヲ要セサル官吏ハ宣誓ヲ爲サルモ固ヨリ證據ノ性質ヲ有スルモノナレハ偽証
罪ヲ以テ處斷セサルヘカラス

○刑法 第二百二十三條參看

○洲本治安裁判所判事補 (十六年一月二十三日請訓) 同年二月十三日内訓

民事商事行政裁判ニ關スル証人ニシテ偽証ヲ爲シタルモノハ刑法第二百二十三條ニ照シテ其
罪ヲ罰ス可キハ論ヲ俟タス然ルニ民事商事行政裁判ノ手續上未タ其証人ヲシテ宣誓ヲ爲サシ
ム可キ法例無之然ラハ則其宣誓ヲ爲サシメサル証人ノ陳述中縱令ヒ僞リアルモ直ニ偽証ノ罪
アリトシテ之ヲ刑法第二百二十三條ニ照シ處分スルハ聊カ穩當ナラサル様思料致候就テハ民
事商事行政裁判ニ關スル証人タリトモ治罪法第百八十條第百八十一條第百八十二條等ノ規則
ニ準シ其証人ヲシテ宣誓ヲ爲サシメ可然乎
内訓請訓ノ趣刑法第二百二十三條ニ依リ處分ス

但刑事ニ關スル証人ニアラサルヨリハ宣誓ヲ爲サシムルニ及ハサル儀ト心得ヘシ

(理由)右民事商事行政裁判上ノ証人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル法例ナケレハ宣誓ヲ爲サシ

ムルニ及ハサル可シ然レモ其偽証ヲ爲シタル者ハ刑法第二百二十三條ニ依リ處分スヘキモノト考量ス

○刑法 第二百三十二條參看

○奈良始審裁判所判事 (十六年一月廿四日請訓) 全年二月三日內訓

第三條 刑法第二百三十二條官職階ヲ詐稱シ云々トアル其官職トハ神官教導職又ハ戶長等ノ類ヲモ無論右ノ部中ト相心得可然哉
內訓第三條見込ノ通

○刑法 第二百五十三條及第四百廿六條參看

○東京輕罪裁判所檢事 (十六年一月九日請訓) 同年同月十八日內訓

金剛砂ヲ混和シテ搗精シタル米穀ヲ飯用ニ供スル時ハ自然人身ノ健康ニ害アルヲ以テ明治十三年東京府甲第五十八號布達ノ趣モ有之候處搗米渡世ノ者ニシテ右金剛砂ヲ混合シテ米穀ヲ搗精シ之ヲ販賣シタル者ハ刑法第二百五十三條ニ從テ處分シ其搗精ニ止リ未タ販賣セサル者ハ同第四百二十六條第四項ニ問擬スヘキ筋ト相心得可然哉右ハ裁判官ト意見相稱ハサル廉有之處分上差支候付至急何分ノ御訓示ヲ仰キ候也
內訓金剛砂ヲ混和シ米穀ヲ搗精シタル者處分ノ儀ニ付請訓ノ趣右ハ見解ノ通

○刑法第二百五十六條參看

○甲府始審裁判所檢事 (十六年二月十二日質議) 同年同月廿日回答

刑法第二百五十六條官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者云々トアリ右醫業トアルハ私ニ醫術ヲ開業シタル者ヲ待ツノ法律ニシテ現ニ官許ヲ得タル醫師ノ門ニ入り授業中適々師道ノ不在ニアツテ病者ノ請ニ應シ一時診斷施藥セシ者ノ如キハ仮令官許ヲ得サルモ本條ノ問フヘキ限リニアラスト思料候へ共聊カ疑義ヲ生シ候條如何相心得可然哉
回答本月十二日附ヲ以テ醫師ノ門ニ入り授業中病者ノ請ニ應シ診斷施藥セシ者ノ件御質議ノ趣右ハ貴官御意見ノ通りニテ可然ト考量候此段及回答候也

○刑法第二百六十條及二百六十一條二百六十二條參看

○群馬縣 (十五年十二月廿日上申) 十六年一月八日付

凡賭場ヲ開張シ利ヲ謀リ又ハ博徒ヲ招結セシムル者ハ皆無產業ニシ不正ノ利ヲ掠メ生活ヲ爲スノ徒ナリ而今其所爲ノ一班ヲ舉ルニ其家ノ子弟ヲ誘導シ賭博ニ惑溺セシメ其財物ヲ騙取スルニ外ナラス爲メニ破産ノ良民變ノ百般ノ惡行ヲ爲スニ至ル故ニ刑法其罪質ヲ風俗ヲ害スルノ部ニ加ヘ以テ民俗ノ不長ニ趨ル者ヲ防止セントス然ハ其罪犯ニ對シ法律ヲ適用スルニ當リ宜シ其地方ノ風俗ヲ顧ミサル可カラズ既ニ本縣下ノ如キハ累年強大ノ博徒輩出シ其害太タ

健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪、私ニ醫業ヲ爲スノ罪 六十一

民俗ニ深染セルヲ以テ之ヲ懲罰スルヤ罪ノ情々ニ依ルハ論ヲ俟タスト雖彼ノ酌減ヲ是トシ輕微ノ刑ヲ科スルニ至リテハ博徒ノ侮蔑ヲ受ケ刑ノ果効ヲ奏セサルノミナラス却テ喘着跋扈スルハ無論ナル可シト考量致候就テハ右張大ノ博徒金井延五郎ナル者始十五名過般捕縛其良果ヲ取締上ニ觀ンコト切望シ本縣警部長小菅榮脩ヨリ別紙ノ通申出有之右ハ地方保安ニ關係不尠候條該犯等ヲ責付保釋ハ勿論寬假ノ御處分無之様至急特別ノ御詮議相成度此段上申候也指令上申ノ趣別紙ノ通前橋輕罪裁判所へ及内訓候也

前橋輕罪裁判所へ内訓 十六年一月八日

其裁判所ニ於テ豫審中ノ賭博犯金井延五郎外數名處分ノ儀ニ付別紙ノ通群馬縣令ヨリ上申候條右ハ保釋責付ハ勿論寬假ノ處分無之様嚴重注意可致此旨及内訓候也

○群馬縣 十五年十二月十五日伺 十六年一月十三日付

爰ニ無賴ノ徒ヲ招集シ賭場ヲ開張利ヲ圖ル者ノ請ヒニ應シ房屋ヲ給與シ若干ノ坐料ヲ得タル後又前同段ノ求メニ應シ房屋ヲ給與シタル者アリ右等ハ給與スル度數ノ多少ニ拘ラス其情ヲ知テ給與シ金ヲ受ル如キハ刑法第二百六十一條ノ給與者ト犯狀異ルヲ以テ其區別ヲ分テ罰セサルニ於テハ決ノ穩當ナラサルニ似タリ依テ右犯者ハ刑法第二百六十條ノ犯情ヲ知リ則チ第百九條所謂犯罪ヲ容易ナラシメタル者ヲ以テ論シ可然哉差掛リ候義有之ニ付至急御指令有之度此段相伺候也

指令伺面ノ如キ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ其情狀ニ因リ刑法第二百六十條ノ從犯又ハ

正犯ヲ以テ論スヘシ

○平始審裁判所檢事 十五年十二月廿八日請訓 十六年一月十八日内訓

刑法第二百六十一條財物ヲ賭シ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ云々トアリ而シテ其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ノ罪ハ現行非現行ニ拘ハラズ總テ處罰スル儀ニ候哉果シテ然ラハ玆ニ現ニ博奕ヲ爲スノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者アリテ數日ヲ經テ露顯ス假令ハ嘗テ博奕ヲ爲シタル申某等他人ノ犯罪アリテ糾治中何月何日乙某ノ宅ヲ借り博奕ヲ爲シタル旨ヲ供述ス爰ニ於テ乙某ヲ取調處賭房給與ノ事實明了ス此場合ニ於テ非現行犯ナル乙某ハ之ヲ罰シ甲某ヲ不問ニ置クカ若キハ權衡其當ヲ失スルノミナラス或ハ兇徒等共謀シ告發等ヲ爲シ爲メニ冤罪ヲ蒙ル者無シト言フ可カラス依テ本條中賭房ヲ給與シタル者モ現行犯ニ限リ罰スルハ勿論ノ儀ト存候得共疑義ヲ生シ目下差懸リタル事件有之候至急何分ノ内訓ヲ仰キ候也

内訓請訓之趣見込ノ通

○水戸始審裁判所檢事 十五年十二月二十七日請訓 十六年一月二十二日内訓

第三條 賭博上ヨリ成立タル金圓契約證アリ本案賭博事件ハ非現行ニ歸シ免訴ノ言渡ヲ受ケタル時ハ右ノ契約證ハ不正分子ヨリ成立タルコト明白ナルヲ以テ縱令本案免訴ト爲リタルモ檢事司法警察官ニ於テ犯則ト看做シ沒收ノ處分ニ及フヘキ哉又ハ唯民事上無効ノ契約タルニ止マル哉

内訓第三條後段見込ノ通

○奈良始審裁判所判事 (十六年一月廿四日請訓)

全 年二月三日内訓

第四條 刑法第二百六十一條財物ヲ賭シ現ニ博奕ヲナス云々トアリ右現ノ字義ニ於ケル假令
ハ五名連座シテ賭博ヲナス當時捕吏之ヲ目撃シ手入ノ際内二名ハ現場逃走スルモ期滿免除限
内捕獲ニ係ラハ五名同一ノ刑ニ處斷スルハ論ヲ俟タスト雖モ若シ其連座ノ内二名ハ一旦手合
ニ加ハルモ忽チ不良ノ所爲ト悔悟絶念ノ自家ニ歸リ數時間ヲ經テ殘ル三名現場捕ニ就テ審理
中右三名ノ供述ヨリ發覺セシ往キニ歸リタル二名ヲモ現場捕ニ就ク者ト同一處斷スル儀ト相
必得可然哉將タ往キニ歸リタル二名ハ悔悟絶念スルノミナラス手入ノ際逃走シタルモノトハ
大ニ異ナリ固ヨリ非現行ナルヲ以テ不問ニ措キ可然儀ニ候哉

内訓第四條現行ノ犯人ト認メサル者ハ後段見込ノ通

○前橋始審裁判所檢事 (十六年一月廿六日質問)

全 年二月七日回答

第一條 刑法第二百六十條ニ賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リトアルハ家屋ヲ賭場ニ供シ(平時又ハ
タ)其席料ヲ受ケルモノハ勿論博徒ヲ招集シ(何月何日何所ニ於テ賭場ヲ開ク)賭場ニ於テ貸
元トナリ(駒札ト唱フルモノヲ賭博者ニ賣)付參會ス可キ旨ヲ告知ス(賭場ニ於テ貸
元トナリ)渡シ一圓ニ付幾錢ト高利ニ定ム(利金ヲ得ル(平時又ハ其一時ニ係ルヲ問ハス)モノ
ハ如キモ包含スル儀カ)

第二條 前同條ニ博徒ヲ招結シタル者トアルハ恒ニ産業ナクシテ其子分ト稱スル者ヲ從ヘ居
ルモノ(自ラ賭場ヲ行ハサルモ平時子分ノ内重立ツモノヲ各所ニ派遣シ賭博ヲ)ハ勿論普通ノ
開カセ代貸ヲ爲サシメ其他種々ノ名目ヲ以テ不正ノ利金ヲ收メシム

博徒(親分又ハ子分ト)

稱スルモノナシ)

ニテ博奕ノ催主トナリ

(何日何所ニ於テ賭博ヲ行フ)

博奕ヲ爲スモノ

第三條 偶然賭場ニ於テ同夥ノ委託ニ因リ貸元トナリ不正ノ利金ヲ得ルモノアリ此犯者ノ如
キハ其賭博ヲ行ハサルモ刑法第二百六十一條ニ問擬スヘキモノカ
又刑法第二百六十一條ニ房屋ヲ給與シタルモノトアルハ止テ得テ博徒ノ依頼ニ應ジ又ハ料理
店等ニ於テ來客ノ賭博ヲ行フヲ見認メ默許シタル如キ爲メニ席料ヲ受ケサルモノヲ指稱セシ
義カ

又房屋ヲ給與シタルモノ又同シトアルハ則前段ノ刑名ヲ指シタルモノニシテ現行ニ限ルノ意
旨ニ之レナキカ

回答賭博犯處分之儀ニ付御質問ノ趣右第一條第二條第三條一項總テ御意見ノ通第三條二項
御意見ノ通タル可シト雖モ實際ノ形狀ニ依ラサレハ一概ニ論シ難シ第三條三項現ニ行フ者
ニ限ル儀ナリ但數回房屋ヲ給與シ謝金等ヲ得テ賭博開張ノ事實アル者ハ第二百六十條ニ依
リ處分スル儀ト考量ス

○三重縣 (十六年二月七日伺)

全年全月廿二日付

富籤ヲ販賣スルノ本人ハ其販賣ノ牙保若クハ幫助ヲナシタル者ニ比スレハ却テ其情惡ムヘシ
其罪重カルヘキ儀ト存候處昨十五年第二十五號布告中其罰文不相見因テ刑法第二百六十二條
ニ對照シテ思考スルニ右販賣者ハ同條ノ所謂業ヲ興行シタルノ初メニシテ爲コ財物ヲ醜集

抽籤シテ利益ヲ僥倖シタルハ與行ノ終リナルヲ以テ該販賣者ハ當然全條ノ違反人ニシテ乃チ其罪アリト認メ候否ヲサレハ重キ販賣者ヲ宥シテ輕キ販賣者ノ牙保若シハ幫助者ヲ罰スルノ理南無之考定候得共一應相伺候

指令本月七日付伺ノ趣販賣本人ハ刑法第二百六十二條ニ依リ處罰スル儀ト心得可シ

○刑法 第二百六十三條參看

○內務省 (十五年十二月八日照會) (十六年一月十九日照會)

千葉縣ヨリ別紙ノ通伺出候處右ハ別段差支無之候哉申卿指令之積リ取調可及御廻存候得共一應御意見致承知度此段及御照會候也

千葉縣伺 十五年十月廿六日

說教佛事ノ際佛堂墓所禮拜所ニ對シ不敬ノ所爲又ハ防礙ヲ爲サ、ヲシムル爲メ各宗寺門ノ内外或ハ堂庭堂内へ刑法第二百六十三條ノ全文ヲ揭示致シ度旨申出候向有之右ハ不苦筋ニ可有之哉御指揮ヲ仰度此段相伺候也

內務省へ回答 十五年十二月十五日

千葉縣令代理大書記官岩佐爲春別紙伺出ノ件ハ聞届不苦儀ト存候書類御返戻此段及御回答候也

內務省ヨリ再照會 十六年一月九日

別紙伺ノ義ニ付第六八一六號御回答ニ依リ朱書ノ通り指令文記載及御回候條御調印濟返却有之度此段申入候也

回答千葉縣伺出之件ニ付調印ノ儀御照會ノ趣承知致候依テ別紙へ捺印御返付致シ候也

○刑法 第二百八十九條參看

○札幌始審裁判所判事 (十五年十二月廿三日請訓) (十六年一月十八日內訓)

第一郡區役所又ハ戶長役場雇ニ於テ町村人民各戸ニ附キ徵収スル所ノ税金ヲ役所役場へハ未タ收入セサル体ニ爲シ私借スル者ハ官吏ニアラサルヲ以テ刑法第二百八十九條ニ照シ處分スルモノニハ固ヨリ無之然レモ同法第三百六十六條ニ依ルモ亦正條ヲ得タリト申シ難シ右ハ如何處分可然哉

內訓請訓ノ趣第一項雇員ト雖モ官吏ニ準ス可キ者ハ刑法第二百八十九條ニ依リ處分ス但兩項共官吏ニ準セサル者ハ通常人民ト同シク處分ス

○刑法 第二百九十二條參看

○高知始審裁判所檢事 (十六年二月廿一日請訓) (十六年三月六日內訓)

墮胎歴死ノ事タル元來父子ノ倫理ニ乖キ化育ノ天心ニ戻リ容易ナラサル次第ニ有之候處本邦ノ俗古來其禁ヲ犯スモノ極ナカラス維新以降責ニ地方ニ任スルモノ蓋其矯正ニ汲々タル比々

皆然リト雖モ下等人民ニ至テハ未ダ全ク其跡ヲ絶タス凡其囚一ニシテ止マラスト雖モ或ハ貧窮ニシテ多子ヲ舉クルコト能ハス或ハ私生コトテ之ヲ公舉スルコト能ハス或適宜舉兒ノ數ヲ限ルノ慣習等ニ外ナラス而其事タル或ハ壓死ニ忍ヒヌ母体ヲ顧ス一ニ醫師穩婆ニ託シ或ハ間接ニ劇藥ヲ内服シ或ハ直接ニ子宮ヲ刺戟シ以テ墮胎ヲ計リ或ハ貧寔醫師穩婆ニ託スルノ資ナク又母体ノ健全ニ望ムアリ忍ヒテ自ラ壓死ヲ致スノ類ヲ多シトナス其情ヲ問ヘハ則曰ク大ナ益シ小ヲ損スル方止ヲ得サルニ出ツト其陋俗實ニ言フニ忍ヒサルモノアリ是以テ墮胎ノ罪ニ至テハ刑法職セテ明文アリ唯壓死ニ至テハ他ノ據ルヘキナク乃之手論セント欲スル既ニ分娩生ヲ稟クルモノハ人ヲ以テ之ヲ名クヘク胎ヲ以テ之ヲ目スヘカラス又受胎以降男女互ニ熟識シ分娩ヲ俟テ之ヲ壓死コ致ス時ハ之ヲ擬スルニ謀殺ヲ以テスヘク墮胎ヲ以テスヘカラス然レモ自ラ轉シテ之ヲ願ミレハ其情狀既ニ前陳ノ如クコシテ夫ノ私怨ヲ挾ミ姦情ヲ逞フシ利慾ヲ熾コシ百計人ヲ死コ致スノ兇惡ト曰ク同シテ語ルヘカラス又其權衡ヲ舉クル墮胎ニ在テハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處スヘク壓死ニ在テハ死刑ニ處セサルヲ得ス其輕重相距ル亦甚シト謂フヘシ舊律ニ於ルモ尙且嬰兒ト大人トヲ分チ又之ヲ細別シテ各等親ヲ立テ毆祖父母々々條ニ依ルモ徒三年ノ處刑ニ過キス况ンヤ新刑法ニ於テヲヤ其法意ノ存スルトコロ斷シテ輕減ニ在ルコト明ナリ因是觀之トキハ所謂壓死ナル者既ニ分娩後ニ係ルト雖モ未ダ膝ニ上ラズ哺ニ就カズ產門ヲ出ルヤ否ヤ不幸ニ陷ルモノナルヲ以テ之ヲ墮胎中ニ包含スルトコロ一分トナシ刑法第三百三十條ニ依リ處斷スヘキモノト見込候得共何分律ニ明文ナク名ニ謀殺ノ嫌アリ差掛

事頗ル疑議ニ涉リ甚差支候件有之候コ付至急何分ノ御指揮相成度此段仰御内訓候也

内訓請訓ノ趣墮胎ノ手段ヲ爲シタルニ非スヘテ豫メ謀テ壓殺スルモノハ謀殺ヲ以テ論セサルヲ得ス憫諒ノ情狀アルモノハ酌量減輕ヲ爲スヘキモノトス但法律上ノ輕減コト尙ホ重シトスルノ情狀アルモノハ特赦ノ意見ヲ具シ本省ニ申立ツルモ妨ケナシ

○刑法 第三百一一條參看

○滋賀縣 (十六年三月二日伺) 全年九月九日付

第一條 理不盡ニ他人ノ頭髮ヲ切斷シタルモノハ刑法第三百一一條第二項ニ依リ身體ニ創傷ヲ爲シタルモノヲ以テ論シ可然哉

第二條 若シ其被害者遊妓等ニ係ル時ハ頭髮ヲ切斷セラレタル爲メニ職業ヲ營ムコト能ス此場合ニ於テハ同條第一項職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタルモノヲ以テ論シ可然哉

指令伺ノ趣身體ニ創傷ヲ爲シタルモノヲ以テ論スルヲ得ス場合ニ因リテハ刑法第四百二十五條第九ニ依リ處斷スルコトアルヘシ但實際弊害アルニ於テハ地方ノ違警罪ニ組入レ處分スルヲ得ヘシ

○刑法 第三百二十二條參考

○群馬縣 (十六年二月五日伺) 全年全月廿日付

毆打創傷ノ罪 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

茲ニ行政官吏服務紀律ニ違ヒ懲戒例ニ處ス可キ見込ノモノアリ其違ヒシ所爲ノ取調ヲ受ル吏員ハ廳下居住ノ者ニアラス然ルニ取調急速ヲ要スルヲ以テ取調主任官ニ於テハ其吏員ヲ廳中ノ當直部屋又ハ呼出人民ノ扣所及ヒ門候詰所ニ宿セシメ取調手續（但本文ニ廳内各處ニ分宿受ル者二名以上連申結合シテ爲シタル事件ニ付之テ廳外ニ散宿シ又ハ合宿セシムル時ハ必ス各自意通ヲナシ取調ヲ妨ク可キ見込アリ即チ事ニ害アルヲ以テ止ムヲ得ス廳中ニ分宿ナサシタル都合ニ有之且服食ノ手當ハ勿）ヲ爲シタリ之ヲ宿セシムルヤ右様ノ簡所ナレハ一室ニ閉鎖シ身体ノ自由ヲ奪フノ處分ヲ施ス可ラサルノミナラス是等ノ手續ヲ爲シタル儀毫モ無之處其吏員ハ取調主任官ニ對シ擅ニ人ヲ監禁シタル罪アリトシテ告訴ヲナセリ抑モ刑法第三百二十二條第三百二十三條ノ如キハ人民私擅ニ人ヲ監禁シタル所爲ニ適用ス可クシテ官吏ノ職務ヲ行フニ當リ爲シタル罰條ニ無之ト存シ姑ク之ヲ措キ右廳内ニ宿セシメタル取扱ハ刑法第二百零七十八條不正ニ人ヲ監禁シタルモノト假定セシカ凡ソ監禁ナルモノハ敢テ場所ノ如何ニ拘ハラスト雖モ其所遇室内ニ閉鎖シ身体ノ自由ヲ奪フノ謂ナラン且ツ其事爲タル故意惡意ニ出テス及ヒ不適法ノ取扱ニアラサレハ之ヲ不正ト謂フ可ラス然ラハ前記ノ取扱ハ決シテ刑法ノ支配スル所ニ無之ト存候得共或ハ其取扱ヲ監禁ノ罪ナリトシテ論ス可キモノニ候哉將々之ヲ罰ス可キ正條ハ刑法第二百零七十八條又ハ第三百二十二條以下ニ候哉

指令官吏職務ヲ行フ時モ不正ノ監禁ヲ爲スニ於テハ刑法ニ問フヘキモノトス伺面ノ如キ單ニ廳中ニ止宿セシメタル而已ナル時ハ監禁ノ限ニアラスト雖モ事實ヲ審明シタル上ニ非サレハ確ト難及指令候事

○刑法 第三百五十八條參看

○米澤始審裁判所檢事 (十五年十二月十四日請訓) (十六年一月八日内訓)

第五條 例へハ衆人往來ノ路傍ナル門戸牆壁等ニ人ノ惡事醜行ヲ摘書シテ誹毀ヲ加へ又ハ鐘等ヲ鑄造シテ人ノ惡事醜行ヲ銘シ之ヲ村内非常報告ノ供用ニ懸ケ以テ後世ニ傳フル等(寒僻落ニ至リテハ村民中惡事醜行ヲ爲ス者アレハ之ヲ戒辱スル爲メ撞鐘)ノ事アリ是等ノ事ヲ鑄造シ之ニ銘スルニ其惡事醜行ヲ以テシ後世ニ傳フル等ノ獎慣アリ)ノ事アリ是等ノ事ヲ誹毀セラレタル本人ニ於テハ其榮譽ヲ害セララルハ固ヨリ論ヲ俟タスト雖モ刑法中是等ノ所爲ヲ罰スルノ適條無之者ノ如シ然レモ右ハ刑法第三百五十八條第二ノ書類畫圖ヲ公布シ云々ト有之候書類中ニ含蓄スル儀ニ可有之哉

内訓第五條見解ノ通

○大審院判事 (十六年二月二日伺) (全年十月十日付)

明治十四年第七十二號布告第六條ニ法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ストアルヲ以テ見レハ誹謗律第七條ノ若シ誹毀ヲ受ルノ事刑法ニ觸ル、者檢官ヨリ其事ヲ糾治スルカ若シハ誹毀スル者ヨリ檢官若シクハ法官ニ告發シタル時ハ誹毀ノ罪ヲ治ムルイヲ中止シ以テ事案ノ決チ俟チ其被告人罪ニ坐スル時ハ誹毀ノ罪ヲ論セストアルハ刑法ニ正條アルヲナク且重複ナキニ因リ廢止ニ屬セサルモノ、如シ疑義決兼候間何分ノ御指令有之度候也

指令伺ノ趣誹謗律第七條ハ新法實施ニ付全ク消滅シタルモノトス

(理由)右審案候處舊議誘律ハ其第七條ヲ除クノ外ハ悉皆刑法第百十七條第百十九條第百四十一條第百五十八條第百五十五六七條中ニ操込マレ該第七條ハ刑法中ニ記載無之ニ付未タ消滅セサルモノ、如シト雖モ元來該七條ノ主意ハ新法草案第百七十條ニ御立案相成リタルモ現行刑法ニハ故ヲニ之ヲ刪除セラレタルモノナレハ新法實施ノ今日ニ於テ該七條ハ無論消滅シタルモノトセサルヲ得ス況ンヤ議毀ノ如キハ一般ニ關スル罪ナルヲ以テ刑法ニ除キタル者ヲ他ノ規則ヲ援引シテ刑法ヲ左右スルヲ得サルモノト考量ス

○刑法 第三百七十三條參看

○七尾始審裁判所判事 (十五年十二月廿一日請訓)

甲乙兩村海面區域ヲ定メ魚鳥生海鼠貝類又ハ海草類ノ漁獵採草免許鑑札ヲ請ケ營業爲シ來ル處乙村ノ者猥リニ甲村ノ營業場ニ入漁獵採草(人ノ生養若クハ培)セシ者ハ地ノ應ニテ制定シタル取締規則ニ據リ處分スルコ止リ刑法第三百七十三條中營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ヲ以テ處斷スルノ限ニ非ラスト相心得可然哉

○浦和始審裁判所檢事 (十六年二月十六日質議)

第二條 茲ニ竹木ヲ竊取セントテ己ニ之ヲ切倒シタル際ニ捕セラレタルモノハ未遂犯ナリト

ノ論アリ然レモ小官ハ已遂犯ナリト思料ス如何

回答第二條竹木ヲ竊取セントテ切倒シタルモノ未タ其場ヲ移轉セサルモノハ未遂犯ト爲スヘシ

○熊谷始審裁判所檢事 (十六年一月廿日請訓)

盜犯官私ノ山林ニ立テ入竹木若干ヲ伐倒シ已ニ運搬ノ豫備ヲ爲シ該山中ニ堆積シタル後忽然翻意悔悟直ニ官ニ自首ス如斯ハ良心以テ其惡意ヲ阻遏シ又ハ其斷念セシ實證アルモノ或ハ他人ニ覺遂セラレ其目的ヲ遂ケサル者等ハ假令生竹木ヲ伐倒スルニ至ルモ刑法第百十二條ヲ適用シ可然哉又ハ運搬ノ豫備已ニ整ヒタルヲ以テ遂犯ヲ以テ論スヘキモノニ可有之哉

内訓請訓ノ趣實際ノ形狀ニ依ル者ニシテ一概ニ論シ難シト雖モ本件ノ如キハ後段見解ノ通心得可シ

○仙臺始審裁判所判事 (十六年二月十三日伺)

被告人甲兵衛ヲ訊問スル處別紙口供ノ通申供シ巡查并ニ戊平近隣ノ者等ニ於テモ被告カ逮捕セララル、際下ケ緒ヲ以テ大小ヲ鞘ヨリ柄ニカケ一束ニ緊シク相纏ヒ携居リタリト申立ルノミナラス乙之助モ被告申立ル如ク半太刀ノ購求方ヲ委託セシニ相違ナシト申立其他被告カ右兇器ヲ携帶シテ戊平方ヘ忍入リタルハ臨時暴行脅迫ニ供スル爲メ該兇器ヲ携帶シ行タル情況アルヲ見ス斯ノ如キ被告人ハ無論刑法第三百七十條兇器ヲ携帶シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者トアルニ該ルヘキ者ニハ無之ト相考候得共皮想上ヨリ之ヲ見レハ刑法ニ明

文ナシトモ難申聊疑議ヲ生シ候間爲念此段相伺候也(別紙口供略之)

内訓伺ノ趣刑法第三百七十條ニ依ルヘキモノトス但情狀ニ由リ減輕スルヲ得ベシ

○刑法 第三百九十條參看

○字和嶋輕罪裁判所檢事 (十五年十一月十三日伺) 十六年一月六日付

妻タル者其夫ノ名前ヲ以テ借用證券ヲ製シ有合ノ印ヲ押捺シ金圓ヲ借用シ返濟期限ヲ經過シ債主ヨリ偽證ノ告訴ヲ受クルモノアリ

右妻カ債主トノ間ニ行ハレタル偽證ノ所爲ハ之レヲ論スヘキ當然ト心得可然哉又ハ妻ニ於テ借用セシ事ヲ明言スル上ハ何レニシテモ到底其夫ノ辨償ニ歸スルモノナレハ夫名前ノ證書ヲ以テ借財スルモ其所爲ハ罪トナラサルモノニ候哉

指令伺ノ趣夫果シテ情ヲ知ラサル時ハ婦ハ刑法第三百九十條ニ依リ處斷ス (刑紙 零ス)

○刑法 第九十三條參看

○根室輕罪裁判所檢事 (十六年一月廿日請訓) 十六年三月二日内訓

刑法第三百九十三條ニ他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又、抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス其二項ニ自己ノ不動産ト雖モ已ニ抵當典物ト爲シタル者ハ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重テ抵當典物トナシタル者亦同シト旨之處茲ニ甲乙アリ甲者ニ於テ乙者ヨリ金若

千圓ヲ借受ケ期限ニ至リ返辨セサルヨリ乙者ノ督促ヲ受ケ左ノ念書ヲ差入タリ其書ニ曰ク

差入念書

一 盪切鮭

四百五十本

此石七百五十斗目

右ハ本年二月中差入儘キタル借用證金ノ内ヘ向ケ本月九日相違無之御渡可申爲後日差入念書仍如件

明治十五年十一月六日

乙 某 殿

甲 某 印

前顯ノ如ク念書ヲ差入レ置期限經過スルモ盪切鮭四百五十本ヲ乙者ニ渡サ、ルノミナラス甲者ニ於テ右鮭四百五十本ヲ密ニ丙者ニ賣却セシヲ以テ乙者ヨリ甲者ニ對シ詐欺取財ノ罪アリトシ告訴セリ右ハ刑法第三百九十三條ニ動産ノ文字ナキヲ以テ同項ニヨリ罰スルヲ得サ、ルモノト雖モ念書ニ記載アル期限則十一月九日ヲ經過セシ上ハ鮭四百五十本タルヤ所有權乙者ニ移リタルモノニ可有之若シ然ラハ他人ノ動産ヲ冒認シ販賣シタルト言ハサルヲ得ス依テ刑法第三百九十三條ニヨリ處斷スヘキモノナルヤ又ハ民法ニ屬スヘキヤ

内訓請訓ノ誣甲乙契約ノ際其物品ヲ確定シ所有權ヲ移シタルニ於テハ他人ノ物品ヲ寄托セラレタルモノト同様ニ付甲ハ刑法第三百九十五條ニ依リ處斷スヘシト雖モ若シ未タ所有權ヲ移サスニ止タ某日引渡ノ時所有權ヲ移スヘシトノ豫約タルニ於テハ民事ノ責任ヲ有ス

詐欺取財ノ罪及受寄財物ニ關スル罪

七十五

ルノミ差入證書ノヨニテハ事實明白ナラサルニ付像メ判定ニ及ヒ難シ

○浦和始審裁判所檢事 (十六年二月十九日質問)

全 年三月二日回答

第一條 刑法第三百九十三條第二項自己ノ不動産ヲ重テ抵當典物ト爲シタル者ハ索ヨリ同條ニヨリ罰スヘシト雖モ其重テテ公證ヲ爲シタル戸長ハ刑法第九十七條官印盗用ノ罪アル者ト思料ス然ルニ或者ハ其重抵當典物ト爲シタル者モ亦官印盗用ノ共犯人ナリト論セリ此レ從フヘカラサルノ説ト存候得共議論兩岐ニ涉リ到底期スル所ナシ如何
第二條 前條ノ場合ニ於テ戸長タル者利スル所アリテ人民ヲ教唆シテ空物ノ偽證書ヲ造ラシメ其役場印ヲ盗用シタル時ハ人民モ亦官印盗用ノ共犯者ト爲ルヘキヤ
回答刑法第三百九十三條ノ儀ニ付御質問ノ趣右第一條第二條共御文意不明瞭ニ付御質問ノ旨趣ニハ相叶ヒ申聞敷候得共左ニ及回答候也

第一條ハ己ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ重テ抵當典物ト爲シ債主ヲ害ス可キ者タルヲ知テ更ニ公證ヲ爲シタル戸長ハ刑法第二百四條第二百五條ニ依リ處分ス若シ常人同謀シタル時ハ共犯ヲ以テ論ス第二條ハ戸長ハ前條ニ依テ處分シ常人ハ共犯ヲ以テ論ス兩條共官印盗用ノ情狀アル時ハ御見込ノ通尤モ前後ノ文意不備ニシテ事實ヲ詳悉ス可ラサルヲ以テ御確答ニ及ヒ難シ

○刑法 第三百九十五條參看

○茨城縣 (十五年十二月廿六日請訓)

十六年一月十八日內訓

第一條 本年一月三日夜宮城集治監ヨリ獄衣着用ノ儘逃走セシ懲役十年ノ囚今般茨城重罪裁判所ニ於テ破獄逃走及強窃盜罪ノ内一ノ重キ強窃盜罪ヲ以テ輕懲役六年處斷相成候處其宣告書但書ニ獄衣ニ付テハ刑法中正條ナキヲ以テ之ヲ罰セスト有之右ハ官署ヨリ貸與ノ獄衣ヲ拐帶セシモノナレハ刑法第三編第二章第五節中ノ罪アルモノト被考候得共右等ノ所爲ハ刑法中正條ナキ者トシ罰セサルモノニ可有之哉

第二條 果シテ第一條ノ如クナレハ懲治人及別房留置者ノ逃走スルハ刑法ニ正條ナキヲ以テ不問ニ措クハ勿レ右等ノ者貸與ノ獄衣ヲ拐帶スル時ハ刑法ニ正條ナキ者トシ罰セザレサル者ニ可有之哉

内訓請訓ノ趣請訓面ノ如キハ拐帶ノ所爲ニ非サルニ因リ第一條第二條共不問ニ措クヘキモノトス但獄衣ヲ賣却質入シタル者及ヒ第二條別房留置者ト雖モ刑法附則第三十二條ノ如キ監視期限別房ニ留置シタル者逃走シ監視規則ニ違背シタル者ハ刑法ノ正條ニ依リ處罰スル勿論ナリトス

○敦賀治安裁判所判事補 (十五年十二月廿一日伺)

十六年一月十一日付

刑法第三百九十五條ニ受寄ノ財産云々若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ストアリ右若シ以下ノ罪ヲ犯シタル者ハ同第三百九十條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加スルハ無論ノ儀ニ候得共本條(第三百九十五條)ノ騙取拐帶

詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

詐欺ノ所爲ハ元來受寄借用物典物委託等ニ係ルヲ以テ第三百九十條ノ詐欺取財トハ少シク性質ノ異ナルモノナリ且第三百九十四條ノ以外ニ置キタレハ監視ヲ附加スル限ニアラサルモノナル歟將タ詐欺取財ヲ以テ論ストアル以上ハ第三百九十四條ニモ依リ監視ニ付スルモノナル歟

指令伺ノ趣監視ヲ附加ス可キ者トス

○熊谷輕罪裁判所檢事 (十六年一月十二日問合) 全年全月十八日問答

刑法第三百九十五條受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ストアリ右費消トハ費用消耗ノ義ナルヲ以テ寄託又ハ借用セシ萬有ノ物品ヲ賣却セシ者ハ其資力ノ有無ヲ問ハス費消セシ者トナシ本條ノ正面ニ當ルル無論ナリト雖モ他人ノ物品ヲ借用シ一時金融ノ爲メ他人へ抵當典物ニ爲シタルモノ之ヲ受戻シ得ヘキ資力アリ且受戻シテ得ヘキ期限内ニ發覺スルモ直ニ此條ニ照シ處斷スヘキモノニアラス是ニ反シ未タ受戻シ得ヘキ期限内ナリト雖モ其人資力ナキ時ハ既ニ費消シタルモノトシ罰スヘキモノナラン故ニ費消トハ物品現在スルモ抵當典物トシテ得タル金額ヲ費用ニ辨償スル不能者ハ則チ本條ニ照シ罰スヘキモノト考料致シ候得共或ル論者ハ其物品ノ所有權他人ニ移轉セサル以前ハ未タ費消ノ稱ヲ下ス可カラスト爲ス者アルヲ以テ聊カ疑義決シ兼候條如何心得可然哉乍御手數至急仰御教示候也

回答御問合ノ趣所有主ノ催促ヲ受ケ返還スルコトヲ得サル者ハ費消ヲ以テ處分スヘキ儀ト存

候此段及御答候也

○熊谷輕罪裁判所檢事 (十六年一月廿二日請訓) 全年二月一日內訓

茲ニ甲兵衛ナル者アリ乙兵衛ナル豆腐屋ニ雇ハレタル翌日雇主ノ命ヲ受ケ豆腐ノ行商ニ出テ其賣上金一圓五十錢ト曾テ雇主カ貸附金拾圓 (是又命ヲ受ケ徴) トヲ併セ得テ逃走セシ者アリ

又熊谷ノ丙兵衛東京ノ某會社へ送致スヘキ金圓アリ隣家丁兵衛カ東京へ赴ク幸便トシ該金送り届ケテ委託シタルニ丁兵衛是ヲ受ケ送り届ケテ爲サス擅ニ己ノ負債ニ償還シ一時焦

眉ノ急テ免レタル後數日ヲ經テ委託者ノ覺知スル處トナリ嚴責還給ヲ促スモ資力ノ徴給ス可

ナキヲ以テ被害者ヨリ告訴セリ右第一ノ所爲タル被告ノ資力該金ヲ還償シ得ルト否トナ問ハ

ス委託金ヲ得テ逃走セシヲ以テ既ニ拐帶ノ罪ヲ構成セシ者トシ第二ノ所爲ハ費消シテ償還ス

ル能ハサル時ハ (對) 委託金費消ノ罪構成スル者トシ公訴及ヒタルニ裁判官ニ於テハ被告事件

罪トナラストシ無罪免訴ノ言渡ヲナセリ而シテ其說ニ曰ク拐帶トハ詐取シテ持テ逃セシヲ云

フ故ニ委託セラレタル金圓ヲ持逃ケスルモ拐帶ト稱セス又委託ヲ受ケタル金額トハ封金ニ限

リ物件トハ一度費消スレハ元形ニ復セサル者ヲ云フ故ニ封金ニアラサル金圓ノ如キハ例ヘハ

拾圓札ヲ委託セラレ五圓札ニ變交シテ送り届ケルモ拾圓ハ則チ拾圓ナル以上ハ罪トナス可ラ

ス既ニ委託ヲ受ケタル金圓ト送り届ケタル金圓ト其種類ヲ異ニスルモ罪トナラストスレハ是

レ使用ヲ許シタルモ同一ナルヲ以テ費消スルモ損害賠償者民事上身分限リニ止リ刑法上ノ問

フヘキモノニアラスト云フニアリ嗚呼夫レ何ソ然ラン第一ノ所爲ノ如キハ雇主ニ於テ行商ト

詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

賣代金還徴トヲ命シタルモ決シテ使用ヲ許シタルコアラサルヲ以テ其外面ニ顯レタル逃走ノ結果ニ依リ拐帶ノ罪ヲ構成シ第二ノ所爲モ亦送り届ケノ委託ヲ受ケタルニ止リ毫モ使用權ナクシテ使用シテ還給ヲ得サル以上ハ彼ノ物件ノ一度費消スレハ同一ノ物件ヲ得サル者ト何ソ異ナシナルヘシ如此論シ來レハ反對論者或ハ云ハン只送り届ノ委託ヲ受ケ期限通り届ケサルモ返償スレハ罪トナラス返償セサルハ罪トナルノ理由ナシト曰ク費消トハ費用消耗ノ義ナレハ既ニ消耗シ復セサルニ至テ初メテ罪ヲ構成スルモノナルヲ以テ若シ償還スルニ於テハ法律ハ只送り届ケノ期日ヲ愆リタルモノト想像シ罰スルヲ得サルナリ抑モ拐帶ト云ヒ委託物費消ト云ヒ社會カ罪惡ト認メ是ヲ型典ニ掲ケテ罰スヘキ正條ヲ示ス者ハ委託人ノ信任ニ背キ使用ヲ許サレル者ヲ拐帶シ又者擅ニ費消シ他人ニ損害ヲ蒙ラシメタル行爲ヲ懲罰シ他ノ是ニ倣ハントスルモノヲ警戒スルカ爲ナリ然ルニ委託金ハ費消スルモ罪トナラストスレハ是ヨリ起ル百害枚擧ニ違アララス豈ニ社會ノ安寧ヲ維持スル法律ニシテ如此精神ニアラサルヤ判明ナリト考料スルモ如何セン裁判官ト見解ヲ異ニスルヲ以テ此ノ種ノ犯罪アルニ隨ヒ公訴スレハ隨テ免訴無罪ノ言渡セラレ是ヲ不當トナシ上告スルモ大審院ノ判決タル早クモ六ヶ月遅キハ一ケ年ノ後チナルヲ以テ其間此ノ種ノ犯罪夥多ナルニ依リ一々上告ナスモ實ニ繁雜ノミナラス偶々大審院ノ判決アルモ其例他事件ニ及ホスヘカチサルヲ以テ裁判官ニ於テ獨自論ヲ固執シ動カス如此シテ底止セサルハ或ハ法律ヲ齟弄スルノ譏リヲ免レサル而已ナラス他ノ公務ヲ妨害スルノ勦カラサルヲ以テ彼は何レチ正當ノ解釋ナルヤ明解ヲ得テ以テ彼是ノ意見チ一定セ

ント欲シ此段内訓ヲ乞ヒ候條至急訓示チ仰候也

内訓委託ノ金圓ヲ費消及ヒ拐帶シタル者處分ノ件請訓ノ趣右ハ見解ノ通刑法第三百九十五條ニ依リ處分ス可キ者トス此旨及内訓候也

追テ應中ニ意見反對ノ向アラハ此内訓ヲ通知致シ置クヘシ

○浦和始審裁判所檢事(十六年三月十五日質議)

茲ニ雇人アリ家主ヨリ托セラレタル金圓ヲ私擅ニ費用シ其辯解ノ爲メ朋友チシテ已レヲ捕縛セシメ強盜ニ逢ヒ該金ヲ悉皆奪取セラレタル旨家主チ欺キタル者アリ又他人ヨリ財物ヲ預リタル者擅ニ費用シチガチ火災ノ爲メ焼失シタルトテ之ヲ返償セサル者アリ右ハ何レモ詐欺取財ナラント思料ス然ルニ或ハ寄托物費用ニシテ詐欺取財ニアラサル旨論スル者アリ如何疑義ニ涉リ候ニ付煩敷示候也

○回答本月十五日附テ以テ受寄ノ財物等私擅ニ費用シテ欺キタル者ノ件御質議ノ趣右ニ刑法第三百九十五條ニ依リ詐欺ノ所爲アル者トシテ其罪ヲ論スヘキ者ト考量候

○刑法 第三百九十九條參看

○大河原治安裁判所判事補(十五年十二月九日請訓)

第三條 刑法上總テ贓ト稱スルハ正贓現在チ指スモノナル哉果シテ然ルキハ正贓一轉再變シテ金圓ナリ物品トナリタルキハ已ニ贓ノ名實共ニ消滅セシチ以テ其ノ情ヲ知テ該金及物品チ

詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲スモノアルモ贓物ニ關スル罪アリト爲スヘカヲ明ルヲ以テ是亦前條ノ如ク犯人ノ資力ト見做スヘキ哉

内訓第三條贓物ヲ以テ交換シタル金圓其他ノ物件ト雖モ其情ヲ知テ寄藏故賣シ若クハ牙保ヲ爲ス者アルハ仍ホ贓物ニ關スル罪アリトス

○横濱始審裁判所判事 (十六年三月十七日請訓) 同 年三月廿八日内訓

第一條 盜犯アリ其得タル所ノ通貨ヲ以テ物品ヲ買取タル場合ニ於テ其通貨ハ犯罪ニ因テ得タルモノナレハ該物品ハ亦遠ク犯罪ニ因由ナキニアラスト雖モ其罪ヲ犯シタルハ通貨ヲ盜

タルノ所爲ニ止リ物品ヲ買取タルハ固ヨリ罪トナル可キモノニ非ルカ故ニ右物品ハ刑法第四十三條末項ノ所謂犯罪ニ因テ得タル物件ト看做ス可キモノニ非ル歟

内訓第一條刑法第四十三條末項ニ依ル可キ物件ナリトス

第二條 果テ然ハ該物品ハ沒收ス可キモノニアラサルニシテ被害者ノ請求ナキニ於テ假令犯人ノ手ニ在リト雖モ刑法第四十八條ニ依リ直チニ還付ス可キモノニアラサル歟

内訓第二條刑法第四十八條ニ依リ直チニ還付ス

第三條 該物品ハ犯罪ニ因テ得タルモノニ非スモ沒收又ハ還付ノ處分ヲ爲サ、ルニ於テハ之ヲ故買シ又ハ寄藏スル等ノ者アルモ刑法第三百九條以下ノ法律ヲ適用ス可キモノニ非ル歟

内訓第三條贓物ヲ以テ買取又ハ交換シタル物件ト雖モ其情ヲ知テ寄藏故賣シ若クハ牙保ヲ爲ス者ハ仍ホ贓物ニ關スル罪アリトス

○刑法 第四百三條參看
○大審院 (十六年一月十二日伺) 全 年全月廿三日付
火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處シ火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處スヘキノ區別ハ法律上ノ明文ニ依リ明瞭ニ候處爰ニ人ノ住居セサル家屋ニ放火シ其家屋ノ密接セシ(距離九尺)家屋即チ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬セシ者アリ右ハ其放火シタル家屋ハ人ノ住居セサル者ナレモ其燒燬シタル家屋ハ人ノ住居シタル者ナレハ法文ヲ活讀シ其精神ノ在ル所ヲ釋レハ人ノ住居セサル家屋ト雖モ之ニ放火スルハ人ノ住居スルノ家屋ヲ燒燬スルニ至ルヘキハ必然ナルヘキノ距離ナルニ因リ假令ヒ其ノ放火シタル家屋ハ人ノ住居セサル者ナリト雖モ其放火ノ罪ハ刑法第四百三條中ニ含蓄セシ者ト論セサルヲ得サル者ノ如シ然リト雖モ法文上チ固守スル時ハ第四百三條ニ從ハサルヲ得サル者ノ如シ

右ハ明治十五年十月二十八日御内訓ノ趣モ有之候ニ付相伺候條法文ノ解釋及ヒ被告人處分方ノ御指令ヲ仰候也 (別紙書) 類ハ零
指令刑法第四百三條ハ故ラニ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬スルヲ目的トシテ火ヲ放テタルモノヲ云若シ火ヲ放ツノ所爲人ノ住居スル家屋ヲ燒燬スルノ目的タルヲ推測スルニ足ル可キ徵憑アルモノハ現時ノ住居ニ用ヒサルモノト雖モ素ヨリ第四百二條ニ問フ

贓物ニ關スル罪 放火失火ノ罪

～シ本文伺面ノ如キハ勿論前段見解ノ通りタルヘシ

○刑法 第四百九條參看

○平始審裁判所判事 (十五年十二月 日質議) 十六年一月八日回答

第二條 刑法第四百九條ノ家屋財産ヲ燒燬シタルモノトハ他人ノ家屋積集物及失火ニ付避害ノ爲持出シタル荷物ノ類總テ自宅外ニ延燒シタルモノニ止リ豫テ自宅ニ置タル典物委託物借用物ニ及ハサルモノガ若シ然ルニ止ラザレハ雇人ハ勿論第三百八十七條ノ如ク親屬其罪ヲ論セサル明文ナケレハ父子兄弟戸主厄介互ニ人ノ財物ヲ燒燬セサルナリ到底自火タルモ無罪人ナキカ如何ノ

回答第二條刑法第四百九條ニ掲ケル財産トハ自宅外ニ在ルモノニ限ラハ典物受託物借用物等ノ如キ自宅内ニ在ルモノモ含ムト雖モ此細ノ物品ヲ燒燬シタル場合ニ於テハ該條ニ依リ罪ヲ問フノ限ニアラサルヘシ且火ヲ失シタル者刑法第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係時ハ其罪ヲ論セス

○甲府輕罪裁判所檢事 (十六年二月十日質議) 十六年二月十六日回答

第三條 官廳(縣廳或ハ郡役所官立學舎之類)官吏退散時間後失火燒燬ニ係リ其失火人到底不判然ナルモ其責自ラ該官廳取締ノ任アル當直官吏或ハ幹事ニ歸スルモ現ニ火ヲ失シタルニアラサルヲ以テ行政上ノ懲戒ニ止リ刑法ニ問フ限リニ之レナキ儀候哉

回答第三條御見込ノ通

第四條 第三條ノ若シ官吏退散時間前ニ係リ失火不判然ナルモ別ニ其責任ナキモノトスヘキヤ

回答第四條御見込ノ通

○刑法 第四百十七條參看

○橫濱始審裁判所檢事 (十六年二月二日請訓) 十六年二月十四日內訓

爰ニ他人ノ家屋稅居スル者アリ偶家主ヨリ該家屋ヲ引拂フヘキヲ促ス而シテ稅居人ハ未タ他ニ轉スヘキ家屋ヲ得サルヲ以テ其猶豫ヲ家主ニ請求ス家主之レヲ肯ンセズ現ニ人ノ住居スルニモ拘テス一日人ヲシテ他人ノ夫ヲ卒ヒ來リテ遽ガニ該家作ヲ毀ツ稅居人ハ事不意ニ出ルヲ以テ周章爲ス所ヲ知ラズ家狼狽ニ警察ノ保護ニ依リ當日纔カニ之レヲ破毀スル事ヲ止ムルヲ得タリ然レモ家主仍ホ日ヲ隔テ一日ニシテ再ヒ人夫ヲ驅テ遂ニ該家作屋根ノ全部ヲ破毀シ盡セリ如是暴行ヲ受クルニ因テ稅居人ハ身体財産ヲ保護スルニ窮迫ス夫レ家主ノ自己所有ノ家作ヲ破毀スルハ全有ノ權利者ニシテ毫モ妨ケナキカ如シト雖モ荷モ之レヲ人ニ貸シ與ヘ相當ノ家稅ヲ徵シ又稅居人ハ家稅ヲ拂ヒ渡シタル以上ハ之ヲ使用スルノ權ヲ有ス然ルモ家主ハ自己ノ所有權ヲ恃ミ粗暴ニモ人ノ現住スルニ用捨ナク之レヲ破毀スルニ至ルハ刑法第四百十七條ニ問フ平退テ該條ノ精神ヲ按ズルニ人ノ家屋其他ノ建造物ヲ云々トアリテ所謂人

家屋物品ヲ毀壞シ及動植物ヲ害スル罪

ノ家屋トハ人ノ所有ナル家屋ニシテ人ノ住居スル家屋ヲ破毀スルヲ意ニ非ラサルニ似タリ就
テハ前件ノ如キ税居人現住ノ家屋ヲ家主漫リニ之レヲ毀ツニ至ルモ齊シク家主ノ所有物ニシ
テ人ノ家屋ヲ破毀スルモノニ非ラストシ只其所爲ノ暴行ナルニ止マリ之レヲ刑法第四百十七
條ニ問擬ス可キ者ニハ有之間敷ヤ然ルモ之レヲ處スルニ正條ナシ抑モ當橫濱港ノ如キハ家
屋ヲ有スルモ僅カニ十中ノ一ニシテ税居スル者其九分ヲ占ム然ルニ家稅滯リナク又ハ借家期
約アル者ハ勿論縱令ヒ家稅ノ滯ルアルモ家主直チニ之レヲ破毀シ法ノ問フ可キモノナキハ
特リ税居人ノ身体財產ヲ保護スル能ハサルノミナラス闔家ノ老少婦女ヲ擧ケテ儼チ路頭ニ迷
ハシム其酸辛言フ可カラス税居ノ者豈一日モ安寧ヲ保ス可ケンヤ目下前條ノ事實有之候處之
レヲ處スルニ正條ナシ去リ連テ之レヲ不問ニ措クハ公安ヲ害スル最モ甚カラス候ニ付刑法
第四百十條ニ問擬シ得ヘキ哉

内訓請訓ノ趣刑法ニ於テ論スルノ限リニ非ス

○刑法 第四百十九條參看

○奈良始審裁判所 (十六年一月廿四日請訓) 同 (十六年二月三日内訓)
第六條 官林及ヒ官有ニ係ル社寺境内ノ竹木ヲ擅伐シ民費ヲ以テ修繕スヘキ道路橋梁ニ使用
シ一村或ハ數村人民ニ於テ修繕スヘキ社寺ニ供用セシム其之ヲ擅伐セシモノ敢テ已レニ入ル
ハシ念慮アルコトヲ又之ヲ竊取スヘキノ意ニモ無之去連是ヲ不問ニ措クハ官林等保護ノ

途ナキハ勿論決シテ之ヲ不問ニ措クヘキモノニアラサルヘシ仍テ之ヲ刑法第三百七十三條ニ
據リ酌量減輕シテ可然儀ニ候哉

○内訓第六條刑法第四百十九條ヲ以テ論スヘキモノトス
○岡山始審裁判所檢事 (十六年三月十二日同) 電報
官林擅伐シテ一村共有ノ橋梁等ニ供用シタル者モ刑法ニ問フ可キヤ
指令官林ヲ擅伐シテ共有ノ橋梁ニ使用シタル件ハ刑法第四百十九條ニ依リ處分ス可キ者ト

○刑法 第四百廿五條參看
○上田始審裁判所檢事 (十五年十二月二十日同) 十六年一月十五日付
第一條 刑法第四編第四百廿五條第十項ニ明文アル密賣淫處斷ノ儀當分ノ内其取締懲罰ハ從
前ノ通り東京ハ警視廳其他ハ地方官ニ御委任ノ旨明治十四年第六十四号ヲ以テ御布告相成候
ニ付目今地方官ニ於テ行政上ノ處分ヲ以テ取調中拘留或ハ責付ヲ爲シ罰金又ハ苦使ニ處スル
等臨機ノ取締致居候然ルニ右拘留中警察署ノ留置場ヲ遁走シ或ハ責付中ノ犯人ヲ却奪シタル
者アル時ハ刑法第二編第三章第三節第四百四十四條第四百四十七條ニ問擬シ處斷致シ可然哉假令
刑法第四編第四百二十五條第十項ニ明文アルモ其取締懲罰等地方官ニ御委任相成候上ハ之ヲ
囚徒ト做シ難キ儀ニ付刑法ニ問擬スルヲ得サル哉

○上田始審裁判所檢事 (十五年十二月二十日同) 十六年一月十五日付
第一條 刑法第四編第四百廿五條第十項ニ明文アル密賣淫處斷ノ儀當分ノ内其取締懲罰ハ從
前ノ通り東京ハ警視廳其他ハ地方官ニ御委任ノ旨明治十四年第六十四号ヲ以テ御布告相成候
ニ付目今地方官ニ於テ行政上ノ處分ヲ以テ取調中拘留或ハ責付ヲ爲シ罰金又ハ苦使ニ處スル
等臨機ノ取締致居候然ルニ右拘留中警察署ノ留置場ヲ遁走シ或ハ責付中ノ犯人ヲ却奪シタル
者アル時ハ刑法第二編第三章第三節第四百四十四條第四百四十七條ニ問擬シ處斷致シ可然哉假令
刑法第四編第四百二十五條第十項ニ明文アルモ其取締懲罰等地方官ニ御委任相成候上ハ之ヲ
囚徒ト做シ難キ儀ニ付刑法ニ問擬スルヲ得サル哉

指令第一條地方官ニ於テ相當ノ處分ヲ爲スハ格外ナリト雖モ刑法ニ依テ處斷スルノ限ニア
 原之ニテ(理由)密賣淫取締ノ義ハ地方官ニ御委任相成候上ハ一切ノ懲罰方モ亦從テ地方官ノ權内
 懲罰ニテ殊ニ懲治人ノ逃走ニ付テハ既ニ刑法ノ問フ所ニアラサル旨御指令ノ例モ有之旁本
 案件ノ如キモ地方官ニ於テ相當ノ懲罰ヲ設ケ處分セシムル方允當ト考量スハ當テ
 ○刑法 第四百二十七條參看
 ○新潟縣 (十六年一月十七日伺) 全 年二月十日付
 茲定期月ヲ定メ官有地ニ家屋掛ケ造リ致度旨人民ヨリ願出ル者アリ之ヲ許可シ置タルコ付其
 期月ニ至リ右家屋相拂方官ヨリ促スモ借用人ハ彼是左右ニ託シ不取拂時ハ許可候期月外ハ無
 許可ト見做シ刑法第四百二十七條十三項ニ依リ處斷シ可然哉又ハ民法ニ依ル義ト心得可然哉
 右ハ指掛ル事件有之相伺候條至急何分ハ御指揮相成度候也
 指令伺ノ趣末段見込ノ通

○刑法 第四百二十八條參看
 ○京都府 (十六年二月九日請訓) 全 年全月廿一日内訓
 刑法第四百二十八條第五項ニ官許ヲ得ヌシテ劇場其他觀物場ヲ開キ云々ト有之其他云々ノ法

文中人寄席(新内淨瑠璃講釋軍談)モ包含シタル義ニ有之候哉
 内訓刑法第四百二十八條第五項疑義請訓ノ趣人寄席ハ同條ニ包含セサルニ付取締上不都合
 ナル時ハ其規則ヲ設ク可シ

○刑法 第四百二十九條參看
 ○札幌始審裁判所判事 (十五年十一月廿九日請訓) 十六年一月八日内訓
 刑法第四百二十九條第十項通行禁止云々トアルハ譬へハ普請中通行ヲ禁ストアレ臨時ノ榜示
 ニ係ルモノ等ヲ云フ法律ノ精神ニ可有之ト存候然ルニ當道小樽幌内間數十マイルノ鐵道線路
 ノ如キ平素通行ヲ禁止ス可キ旨ニテ譬へハ二三マイル乃至十マイル内外ヲ隔テタル場所へノ
 通行禁止ノ榜示ヲ設ケ置キタルトテ前段禁令ノ布達ナキニモ拘ハラス右等禁榜ヨリ隔絶ノ線
 路(譬へハ小樽停車場ノ傍ラへ通行ノ禁榜ヲ標シ以テ數十マ)ニ立入又ハ乘越へ通行スル者之
 レアルト雖モ直ニ右第四百九條第十項ニ依リ處罰スル限ニアラサル義ト相心得可然哉
 鐵道畧則第十一條ニ何人ニ限ラスステーション又ハ鐵道構内トアリ構内トハ鐵道線路ヲモ含
 有スル義ニ可有之哉然ルニ同則第十五條ヲ見ルニ鐵道線路ト鐵道構内トハ格別ノモノ、如シ
 是亦如何相心得可然哉
 内訓第一條通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行スル者ハ刑法第四百二十九條第十項ニ依リ處分ス
 可シト雖モ榜示ヲ離ル、數マイルノ地ヲ通行スル者ノ如キハ一概ニ同條ヲ以テ論スル限リ

非スト心得可シ

第二條鐵道構内トハ停車場鐵道線路ノ別ナク都テ其柵圍内ヲ稱スル儀ト心得ハシ

○於五所川原治安裁判所 檢事代理警部 (十六年二月十四日請訓) 全 年三月八日内訓
○於前輕罪裁判所 檢事代理警部 (十六年二月十四日請訓) 全 年三月八日内訓
○於津浦鐵道中野站 檢事代理警部 (十六年二月十四日請訓) 全 年三月八日内訓
○於津浦鐵道中野站 檢事代理警部 (十六年二月十四日請訓) 全 年三月八日内訓

支那人... 其... 檢事代理警部 (十六年二月十四日請訓) 全 年三月八日内訓

刑法附則ノ部

○於五所川原治安裁判所 檢事代理警部 (十六年二月十四日請訓) 全 年三月八日内訓

刑法附則中第五條第十八條第二十五條ノ如キ日限ヲ計算スルハ治罪法第十八條ヲ適用スル義ニ可有之哉果シテ然ラハ旅券ノ如キハ其付與シタル日ヲ算入セサル義ニ可有之目下差掛リタル事件有之候ニ付至急何分ノ御指揮ヲ仰キ候也
内訓刑法附則中日限計算ノ儀ニ付請訓ノ趣ハ見解ノ通但第十八條ハ刑法第四十九條第二項ニ從フ可シ

○岡崎始審裁判所檢事 (十五年十二月二十日請訓) 十六年一月八日内訓

第一條 昨十四年第六十七號公布刑法附則第二章第廿七條第四ニ撞ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス云々トアリ其自他ノ區別ハ縣ノ内外ヲ以テスヘキモノト思考ス然レモ右ニテハ實際視察ノ充分届カサル等恐レモ可有之何トナレハ其一縣内ノ管轄ハ大概數十里ノ遠キニ距ルヘク其如斯遠路被監視者ヲシテ自由徘徊タラシメハ途中宿泊スヘキ等ノコモ自然之ノアルヘク從テ是レ等カ視察方ハ餘程困難ニ生スヘク而已ナラス被監視者ヲシテ如斯自由ヲ得セシメハ却テ該犯者カ再ヒ罪ヲ犯スニ至ルノ慮モ亦ナカルヘカラス且折角監視規則ヲ設ケ被監視者ヲシテ將來善長ニ導キ再ヒ惡意ヲ發スルコトナカラシムル豫防ノ原則ニモ悖リ該規則ハ徒勞ニ屬スカ如キ様ノ儀モ生スヘク依テ仍ホ思考スルニ其視察ハ警察署ニアリ從テ自他ノ區別モ又警察署ノ管轄内外ヲ以テスヘキモノニハ無之哉ト疑問ヲ生シ候

内訓第一條前段見込ノ通

○警視廳 (十六年一月廿七日上申) 全 年二月廿七日内訓

刑法附則第二十五條ニ依リ監視ニ附セラル可キ者へ旅券ヲ附與シ送致途中本人逃亡セシ場合ニ於テハ現ニ監視ノ執行ヲ爲ス可キ地ノ警察署ニ於テ治罪ノ手續爲致置候得其他府縣ニテハ其取扱區々ニシテ實際差支ヲ生シ候條一定ノ取扱ニ相成候様至急御訓示相成度此段上申候也右ハ監視ニ付セラレタル者送致途中逃走セシ時逮捕手續ノ義ハ此迄本省御指令ニモ符合致候ニ付左ノ通各裁判所府縣へ御内訓及ハレ可然候哉

内訓

裁判所 府縣 (東京府) (チ除ク)

監視ニ付セラレタル者住居ノ地ニ送致中逃走シタル時逮捕ノ義ニ付別紙ノ通監視總監ヨリ上申候條右ハ監視ヲ執行ス可キ地ノ官署ニ於テ逮捕ノ處分ニ及フヘキ義ト心得可シ但被告入ノ申立タル地ニ住居ナキ者ハ送致ヲ爲シタル地ノ官署ニ於テ右處分ヲ爲ス可キ者トス此旨及内訓候也

司法書記官ヨリ十六年二月十二日付監視總監へ通知書零ス

○石川縣 (十六年一月十九日伺) 全 年二月廿八日付) 内務省合議

刑法附則第二十七條第四項ニ他ノ地方云々ト有之ハ他府縣ヲ指稱スル旨管テ御指令ニ付テハ

監視中管内甲警察署被監視人乙警察署區内へ數日滯留致度旨申出ルモ旅券付與スルノ限リニ無之ト雖モ本縣下ノ如キハ甲乙警察署ノ距里四十里餘ニ涉ル箇所モ有之從テ旅行數日間ヲ要シ管ニ甲乙兩縣ノ相隔タルノ比ニアラス實際取締上相立タルハ勿論ニ付管内旅行ト雖モ同規則第二十五條ヲ通用シ旅券ヲ付與シ其滯留地所轄ノ警察署ニ於テ監視執行爲致度差掛リタル義モ有之候條至急何分ノ御指令相成度此段相伺候也

指令伺ノ趣刑法附則ニ從ヒ旅券ヲ附與スルノ限ニ在ラス但乙警察署ニ通牒シ取締上相當ノ手續ヲ爲スハ格別ナリトス

○石川縣ヨリ内務司法兩卿へ伺 (十六年二月廿七日伺) 内務省合議 同年二月廿四日付

被監視者旅行中不虞ノ災害ニ罹リ旅費等ヲ失シ(事由明確)自ラ進退シ能ハサル者有之時ハ刑法附則第三十二條ニ照準シ其地監獄署へ送致スル儀ト心得可然哉最モ被監視者發着地ノ内執レカ接近ナル場合ニ於テハ其接近警察署へ護送スルモ差問ナキ哉

指令伺之通

○愛媛縣 (十六年三月十日伺) 電報 全年全月十六日付

本月七日電報御指令但書滯在地ノ警察署ニ通牒取締次第相當ノ手續ヲ爲スハ格別ナル旨了承然ルニ縣内ハ無届旅行ニ付キ滯在地ヲ知ルニ由ナシ右ハ必ナラス届出候様相達差問ナキヤ指令本月十日附電信伺ハ伺ノ通ニテ苦シカラス

○山梨縣ヨリ内務司法兩省へ伺(十五年五月三十日伺)

第三項 同則第二十七條監視人遵守條件第一項ニ毎月二度トアリ右ハ警察署ニ於テ豫メ出頭ノ期日ヲ相定メ置キ可然哉

指令第三項伺ノ通

第六項 同則第四十四條特別監視人遵守スヘキ條件第四項ニ一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サストアリ右一日程トハ例ヘハ犯人住居ノ地ヨリ八里ノ地ニ至リ一泊シ歸宅スルカ如キモノナルヤ又ハ片道四里ヲ限リトシ他ニ宿泊セシメサル律意ニ有之候哉

指令豫メ里數ノ制限ヲ設ケス一日中ニ往復スレハ許可スル精神ナリ

右ハ内務省ヨリ參事院へ質問ノ上指令ナリタリ

第七項 同則第二十七條第三十條第三十一條第四十四條ニアル官吏トハ警部警部補迄ヲ指シタルモノニ候哉又ハ巡查モ含有シ候哉

指令第七項前項伺ノ通

第八項 特別監視人其遵守スヘキ條件ニ違反スルモノハ刑法第百五十五條ニ依リ處分スルモノト相心得可然哉

指令第八項伺ノ通

○千葉始審裁判所八日市場支應檢事(十六年三月廿二日請訓)
(全年四月五日內訓)
本年二月七日付第六七一号内訓文中右ハ監視ヲ執行スヘキ地ノ官署トハ裁判所並ニ警察署ヲ

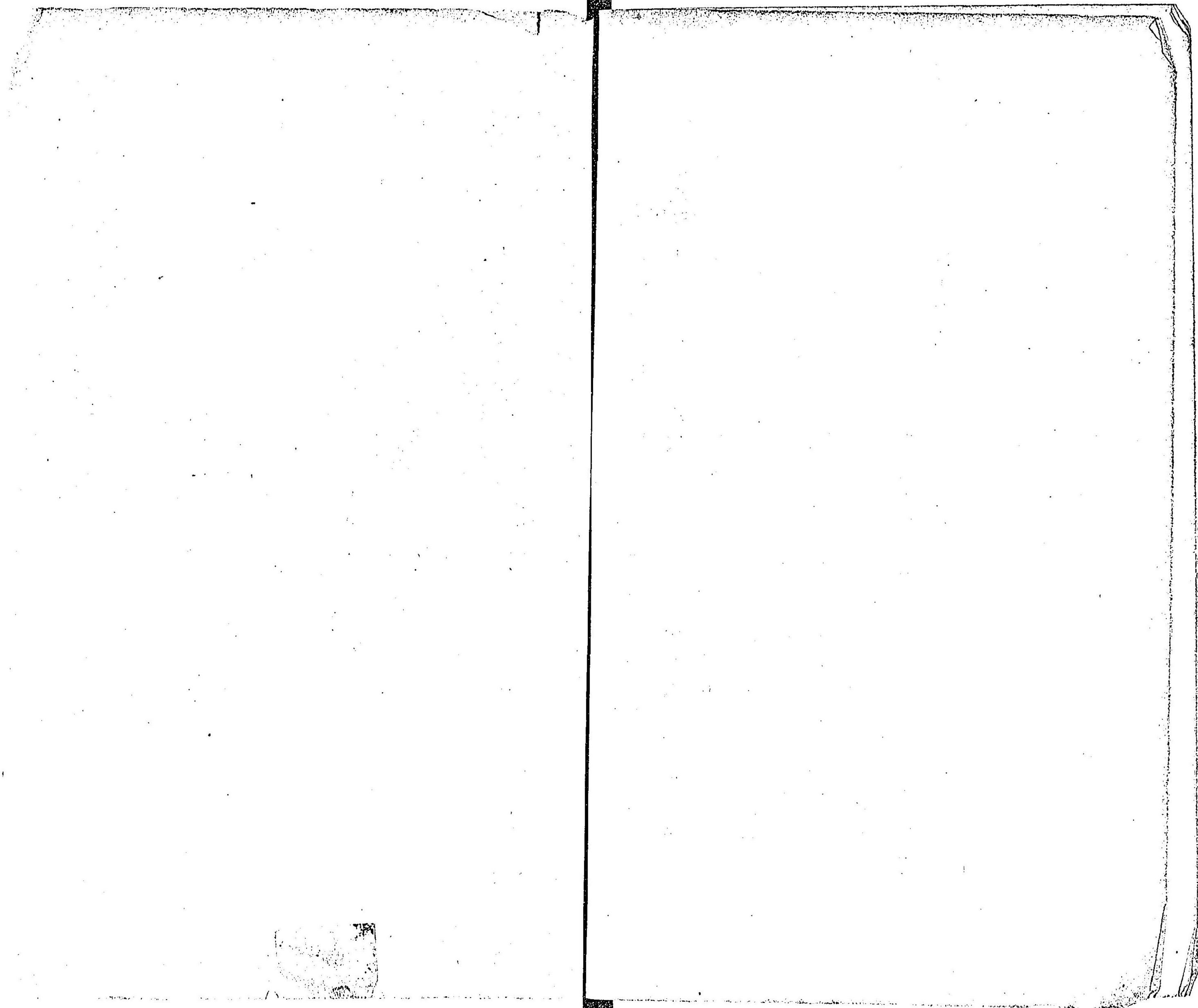
總稱シタルモノナルヤ將タ單ニ警察署ノミヲ指稱シタルモノナルヤ

内訓請訓ノ趣ハ前段見込ノ通

明治十六年五月二十八日出版々權局

禁發賣

刑法令訓集正誤	
丁 行 正誤	四十五 十三 キヲハハノ誤
十四 四 セシハノノ誤	四十六 十五 八十六ノ條ヲ脱ス
十六 四 込ハ ビノ誤	五十 十一 十五條ハ衍
二十一 十一 九十ノ下五ヲ脱ス	五十五 五 召喚ノ下狀ヲ脱ス
二十二 十一 錢以ノ下上ヲ脱ス	十一 十一 受ハ 場ノ誤
二十七 三 波テハ 渡ヲノ誤	五十六 十一 私訴ハ 印ノ誤
四十三 十四 候處ハ 條ノ誤	七十四 十二 九十三ノ上三百ヲ脱
四十五 六 圖ハ 正ノ誤	八十九 十二 四百ノ下二十ヲ脱ス



CZ
711
022

東 京 圖 書 館					
		五 八			新書門
冊	號	架	函	類	部